

地學往來

特31
595
一册 號架函

第七百八十五號
一册

022087-001-8

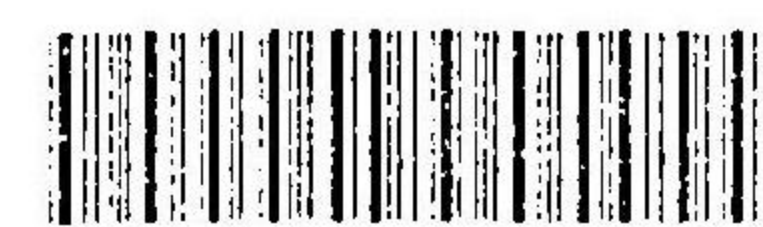
特31-595

地学往来(插画)

伊藤 桂洲/著

M5-6

ADA-0438





桂洲伊藤先生述

亞細亞洲之部

挿畫
地學往來

明治五年
壬申五月

書肆

文苑閣
富山堂

發兌

徳合

徳合

此書も童蒙として地球上の形勢を
 あり且習字の便をらん、為め等々
 するものとして世界万国のときし
 捷徑以外もなきものなり、實は事
 業軍哲にも成るを期つるもの
 徳合の経

三島三浦省後

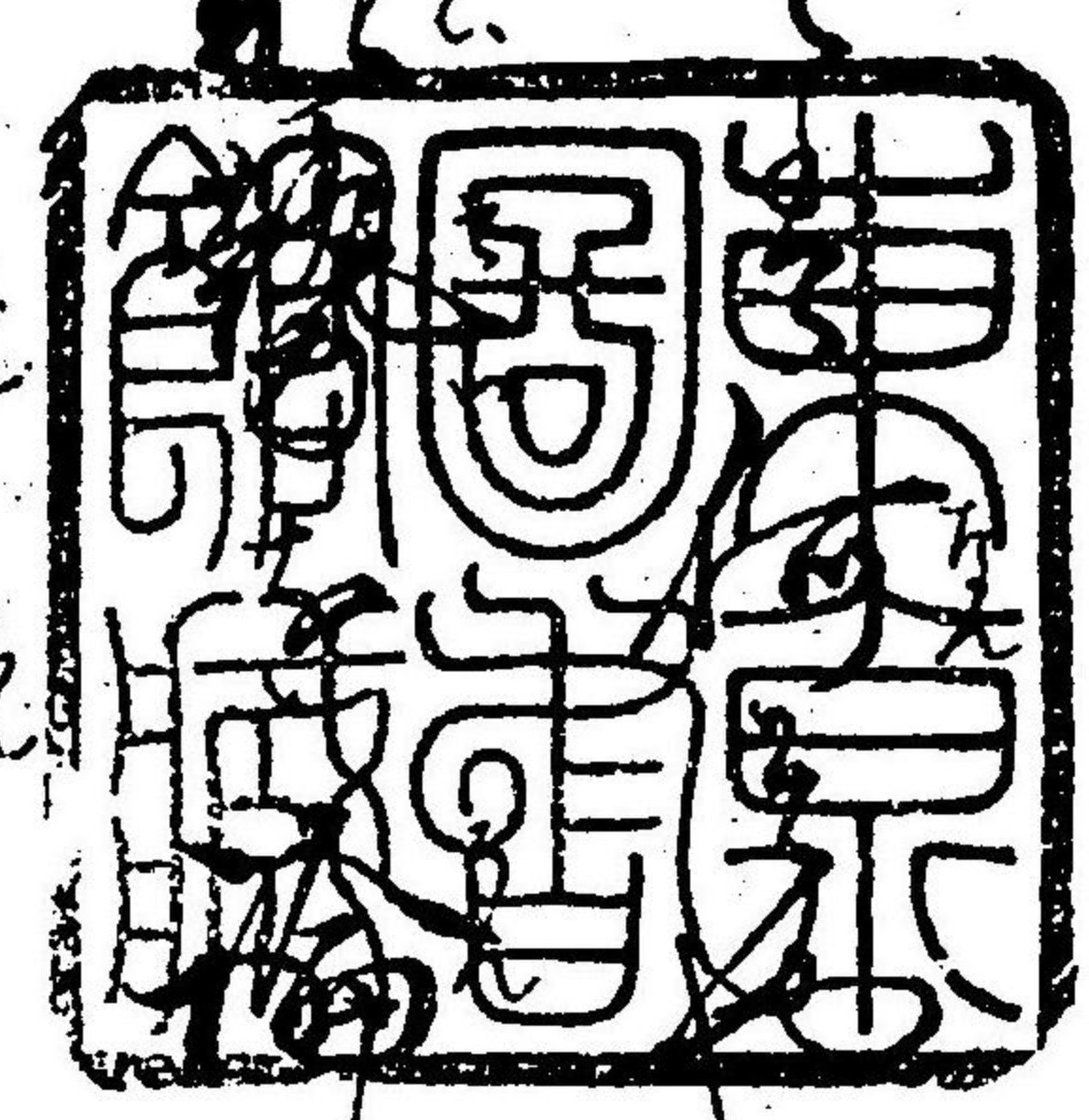
無疆

桂洲まき園 題 叔



地球形勢ノ説

文部省 地理院 通學部 普



万物の位



蓋し地を圓形なりと
恰も橙を球

凡の蓋し地を圓形なりと

想せし所を訊問せば是も異存
多の馮煥ありと雖も此
明瞭なる一書を載せしむ
福寧と船
を欲泉氏及他の航海人其周囲を
轉廻せしき直よ一書を尚も聞り

一舟の于國船せし所回りと
此に確証たり寧ろ地球のふ合
を以て括し其四の五も界す大約
亦も十の二三も其を七を得
地球の周圍も殆ど其の周圍

圓とは圓体の外面を量轉せり
なり其直径ありて五里但し直径
を中央より横切り而側の中間
を量るるを云ふ地球中一六約十
二倍なるものなり

陸地之説

大陸半島と岬地峽を総て陸
地と云ふ蓋し大陸は縦横あり
里大なる廣大の地をいひ島嶼は
環海の少地をいひ半島は

東半球



一乃の地を接し餘を水面
たる地を以て地味と名し島
と大陸と續し積地を云たり
又岬頭とよむ海上を張出
る島嶼家礁たる也

西米珠



水面之説

洋海、股海、灣、海峡、川、河を
水面と稱す。洋を縦横とも
廣大母と重の鹹水と陸地
高絶海、陸地、接

と鹹水の少部 海股海灣
を陸地と廻接せし海の一
多海峡を而海を了し續
き或大洋と海とを連続す
海峡海灣を陸上貫ち或
控擁し了淡水或を其廣
大なるをその海と云ふも其大
河を陸上より其源一海に
海へ入るも他の河海と結ぶ
水體少河を少流或は冷水

下也

水土分界之說

地球の陸土を六大洲に分列
歐羅巴亞細亞亞非利加
北亞美利加南亞美利加澳

亞細亞海
と云ひ又歐

亞細亞細亞北亞美利

加南亞美利加澳大亞細

亞細亞南亞美利加

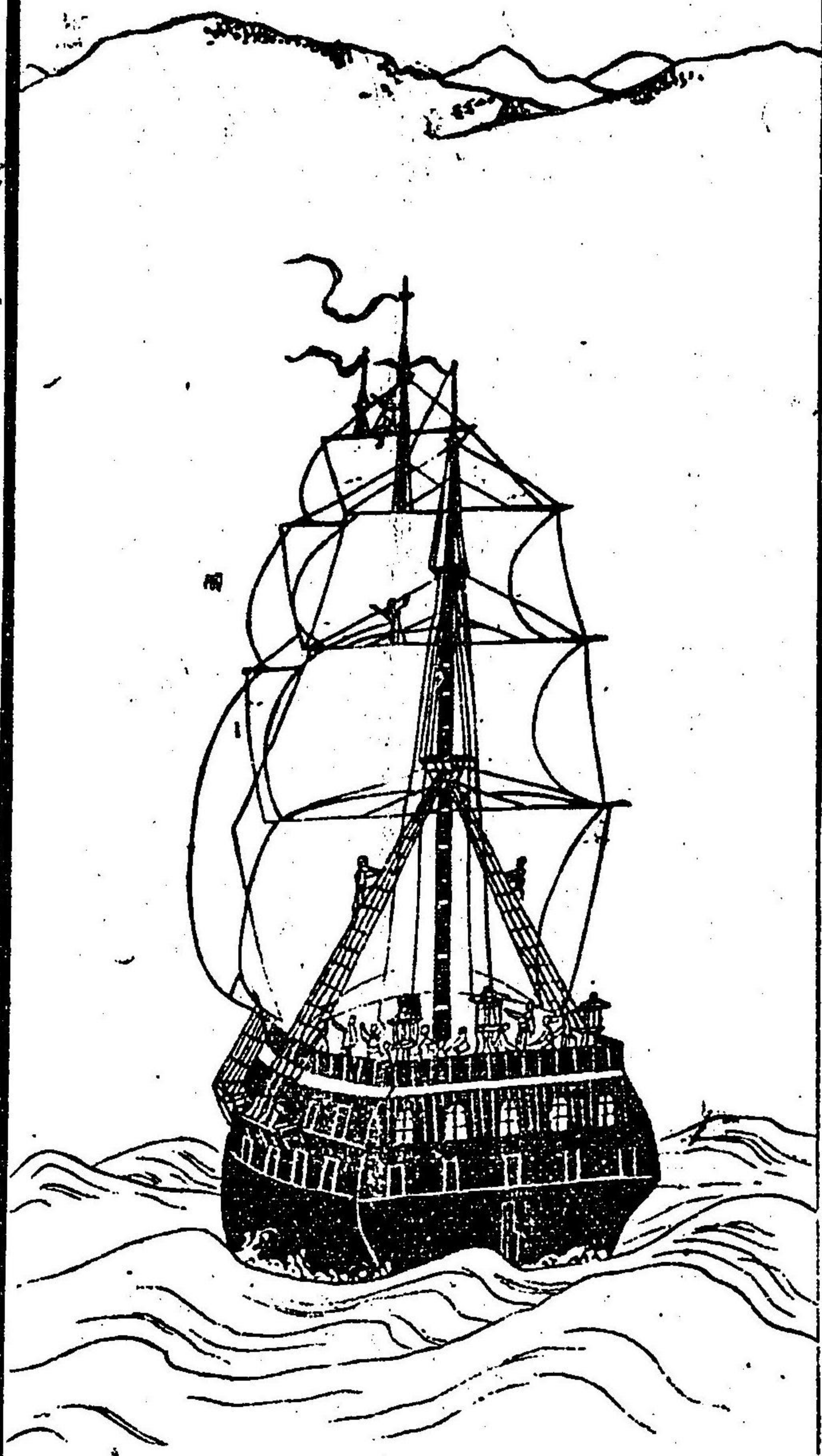
洲亞細亞海と稱する亞美利

加海の西濱より西き印度島
 を西四百九十二年 尚 四百九十二年 大
 多宗國王の命を奉け「ゼノース」
 の名をたより「キリストフルコロンブス」始
 る檢出せしは古洲たる歐

羅色西細亞北利加海の
 人民ももてしむるも
 以てなり地球上の海ありて大
 洋ありて大西洋と東
 洋とありて南極海ありて南

洋の海南北緯の緯

利米亞 亞米利加 發見 不圖



赤道及地圖ノ説

赤道を地球の中央を貫く線
を横線とす其の形を圓作
り多割せしものなり地圖を地
球の全體を其の部を命

上の高き者せよの
地圖を看ると吾人の披
るは男と女を北と南を
南と北を東と西を
西と東を

亞細亞大洲ノ説

亞細亞は地球中之大洲
比すまき地き最大
始て人種を此地の由生
たまひ人種の祖比人全音の地

がよし 且経文仲の祀あり
事情を此地よりあり 事多
し 自主の各小國を 後記せ
んと 録す 名察あり 左
録す 大國の 部分を以て 其

大概を 関す 是

日本帝國

支那帝國

滿州

朝鮮國

蒙古

西藏國

亞細亞洲中俄羅斯國

天竺國

附印度國東境

安南帝國

暹羅國

緬甸帝國

比耳西亞國

亞加業坦國

波路直坦國

大布加利亞國

土耳其國東境

亞拉比亞國

クルリ島

サハリーン島

瑠球島

ゼヲリジヤ國

ニユバル及ヒアンタマン諸島

マルヂフ及ビラツカン郡島

各各國の人口を総計す
約七

位一ふ二百里の數あり

西細五河を北西美州加の西

頤羅色及西北利加の東より

緯線は南を以て二十一度起

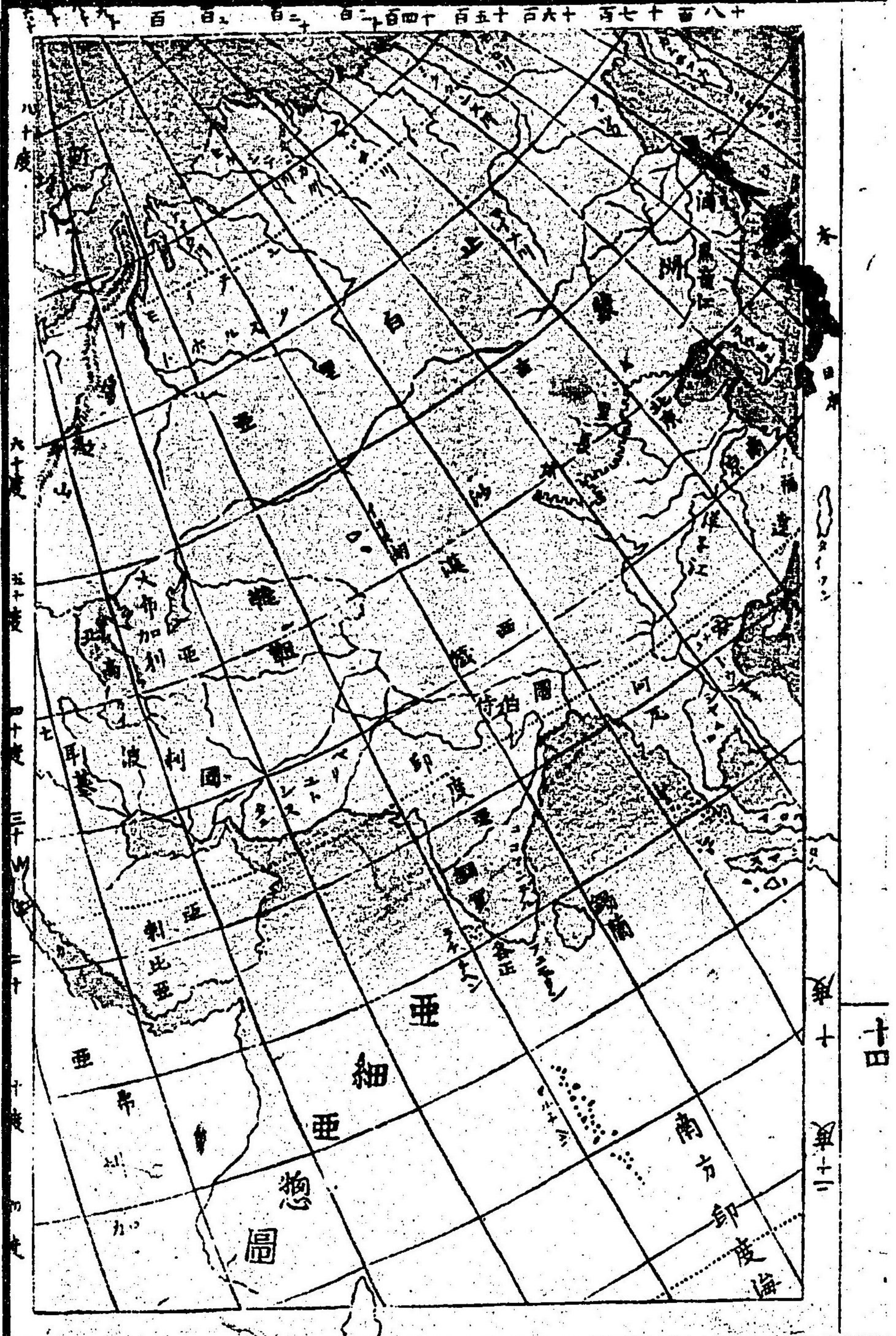
り七十度あり緯線は北緯

緯西六十度起り以て東百四度

より北より其長さは六十度

より四十里より北緯六十

より北緯の百里あり



地學往來

亞細亞大洲之說

大日本帝國
ニヤハンニヤ
 エニハイル

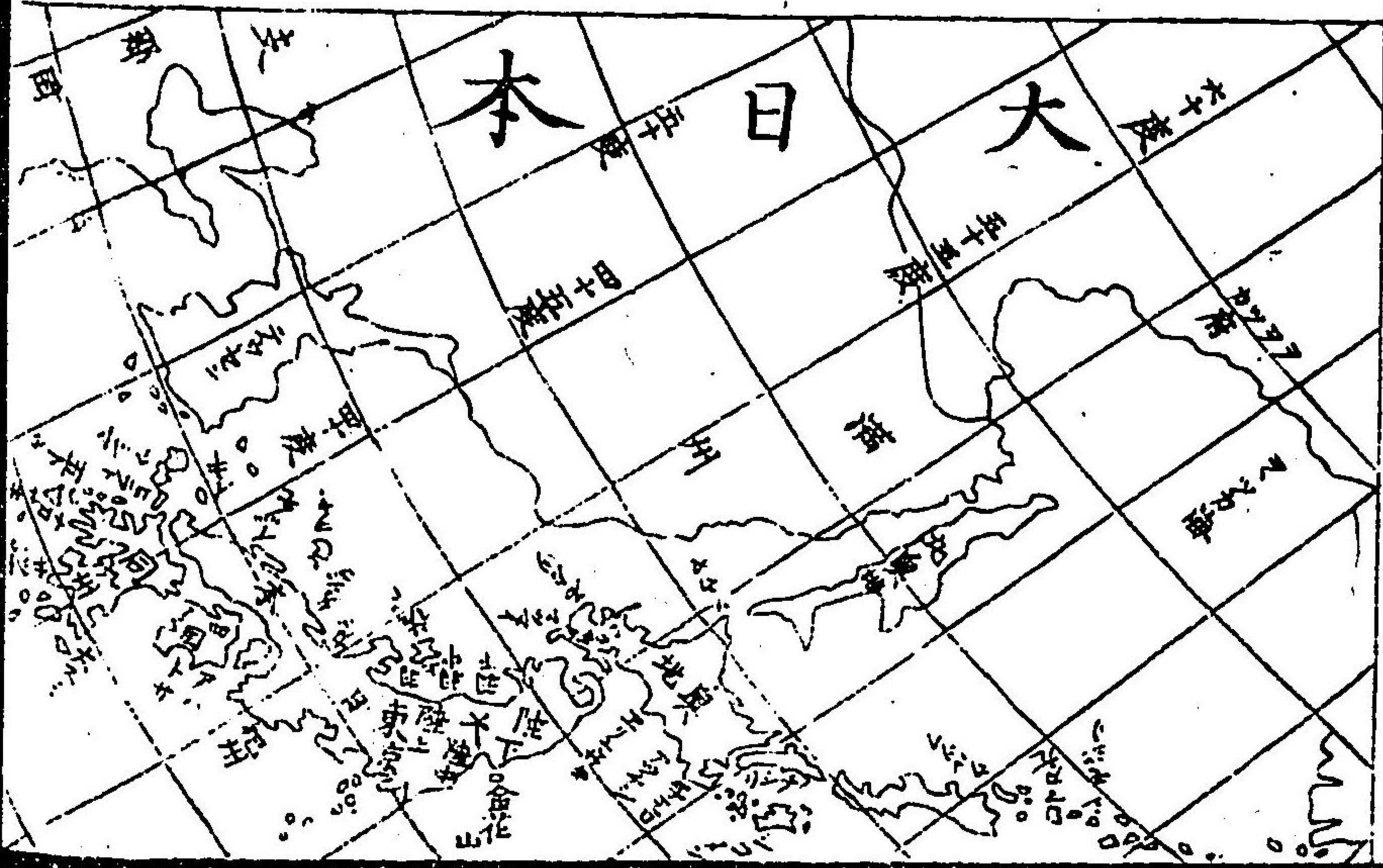
日本帝國も亞細亞の東海

中にある 親なる帝國たる



蓋し四国の大島を
 包括し日本島と
 稱す即ち蝦夷地
 北國より中國
 まるごとく
 是なる人口の總計

約三丁多る東京首城
 東京より二万五千
 人の住民ありて日本
 の東部より大城
 なる
 京城東京より日本島の
 中央より五千餘人の住民



西 外國と通商せしむる港

九州を以て其の地

從來外國の貿易ありし箱館

約一 首 城 東 京 大 坂 各 庫 在 也

物 産 米 茶 綿 花 烟草 樟 腦

樹 膠 及 び 各 般 の 穀 物 造 船 及

ひ 糸 飾 少 用 ありしもの 絹 布 綿 織

本 料 業 製 造 物

磁 器 紙 類 漆

其 利 器 等 多 あり



大日本米

人民の性質、極く伶俐にして諸
業術に進むこと大く敏捷なるを
八百五十四年
安政元年 甲寅 通高の巻
物と外國と結びしより以來其習
風及び服飾、倣ひて微驗を顯

りせり

日本國を緯線赤道以北三十一
度より起り四十を度より至り經
度、北緯、以南十の度より起り偏
西の度二十を至り出づる蓋し

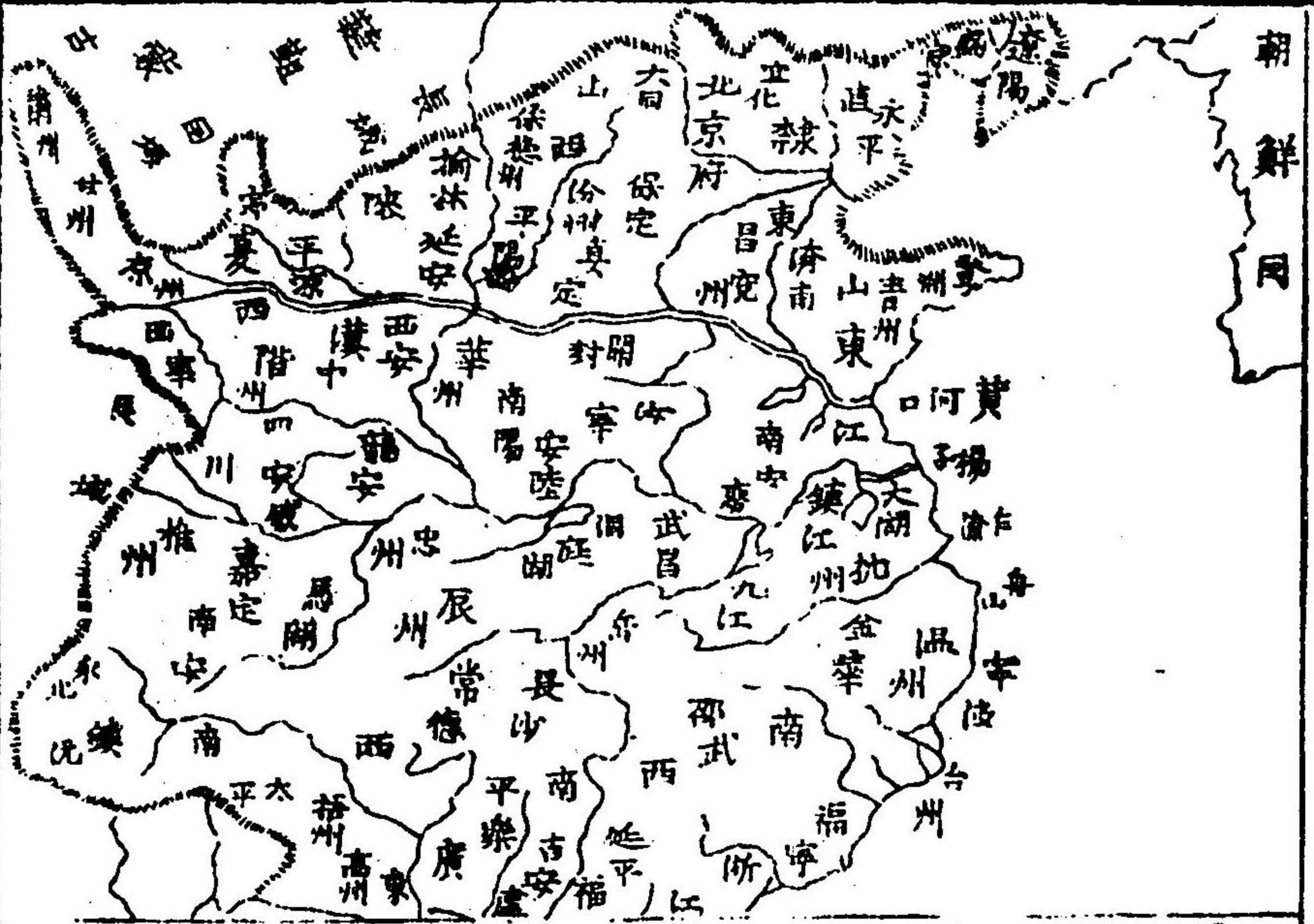
日本を総計十萬九千二百萬
五千四國の一萬七千二百萬を
その二萬五千方里ありて南
シバ及び「サハリン」の南部を以て總計
二十萬の方里ありとす

支那帝國

即チ漢土チヤイニス
エニパール

支那帝國は五細海の中央
及び東方の全體を總轄し廣
大なる國なり其田ニ三大部
ありて北方を支那、南方を
利

チヤ
イニ



スタル
タリー
内蒙古國
リヤ
而

南方ハ西藏國
ト東

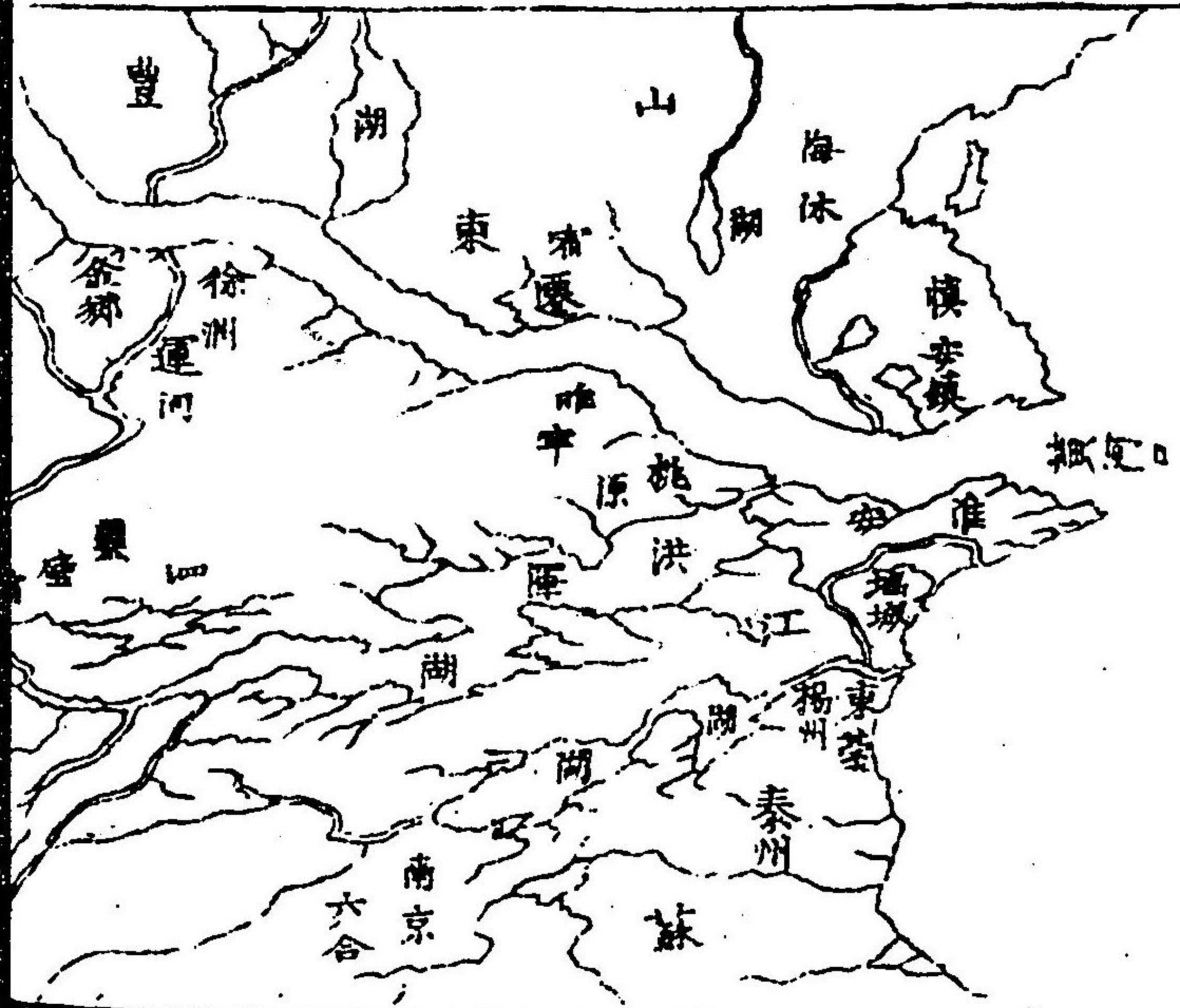
北方ハ支那本國系

其人口の総計

約三億七千萬あり

蒙古國の北方及び東方ハ地脈
膏腴なる地あり南方及び西方
ゴーヒト名付る大沙漠あり
僅この
浮浪の遊類の住居を以て
國を五細五海の中央と爲す

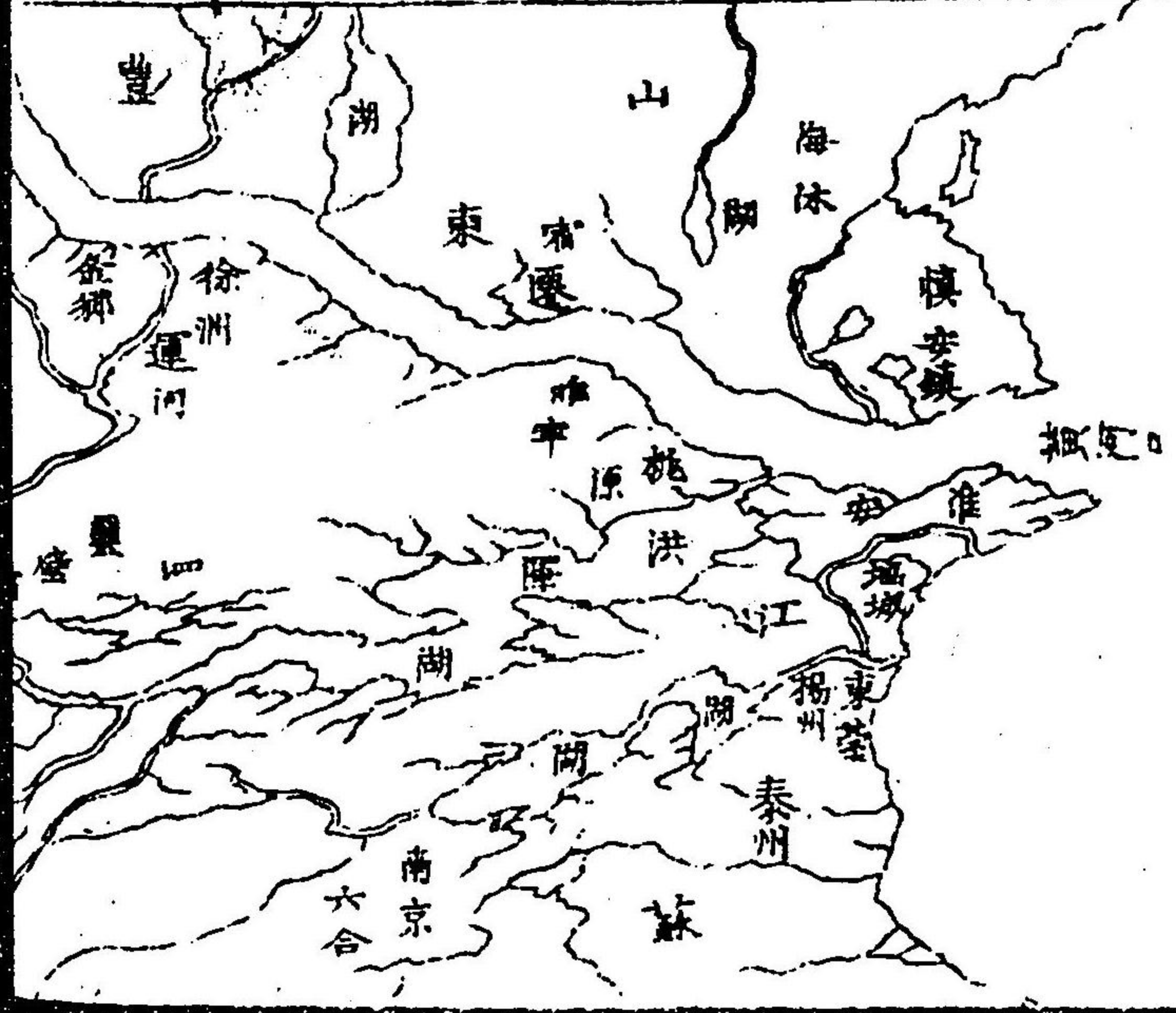
まさし原たより高山
 其四面より繞立
 五細五州中南方
 大河の終るは山中
 より發源を首城



黄河
 支那第一之大河之圖

を「ラスサ」といふ南部
 人の禮教を受く大法官
 稱する教州の主宰即ち大僧
 の位にたりて邦の他邦
 より異なりし所は其政府の古風

まさし原たより高山
 其四面より繞立
 五細五州中南乃
 大河の終るは山中
 より發源を古城



黄河支那第一之大河之圖

を「ラスサ」として南部よりありて衆
 人の禮教を受て大法官
 稱する教州の主宰即ち大僧
 の位をたりて邦國の他邦
 より異なりて所いその政府の古風を

輸出すこと多し一東城小東

部ハの地ヨも多し二百餘人の住

民あり大城あり上海ハイヤン寧波

福州フー潮州スワ及び廣東

海口を外國通商の港とす

大運河及び英里名城支

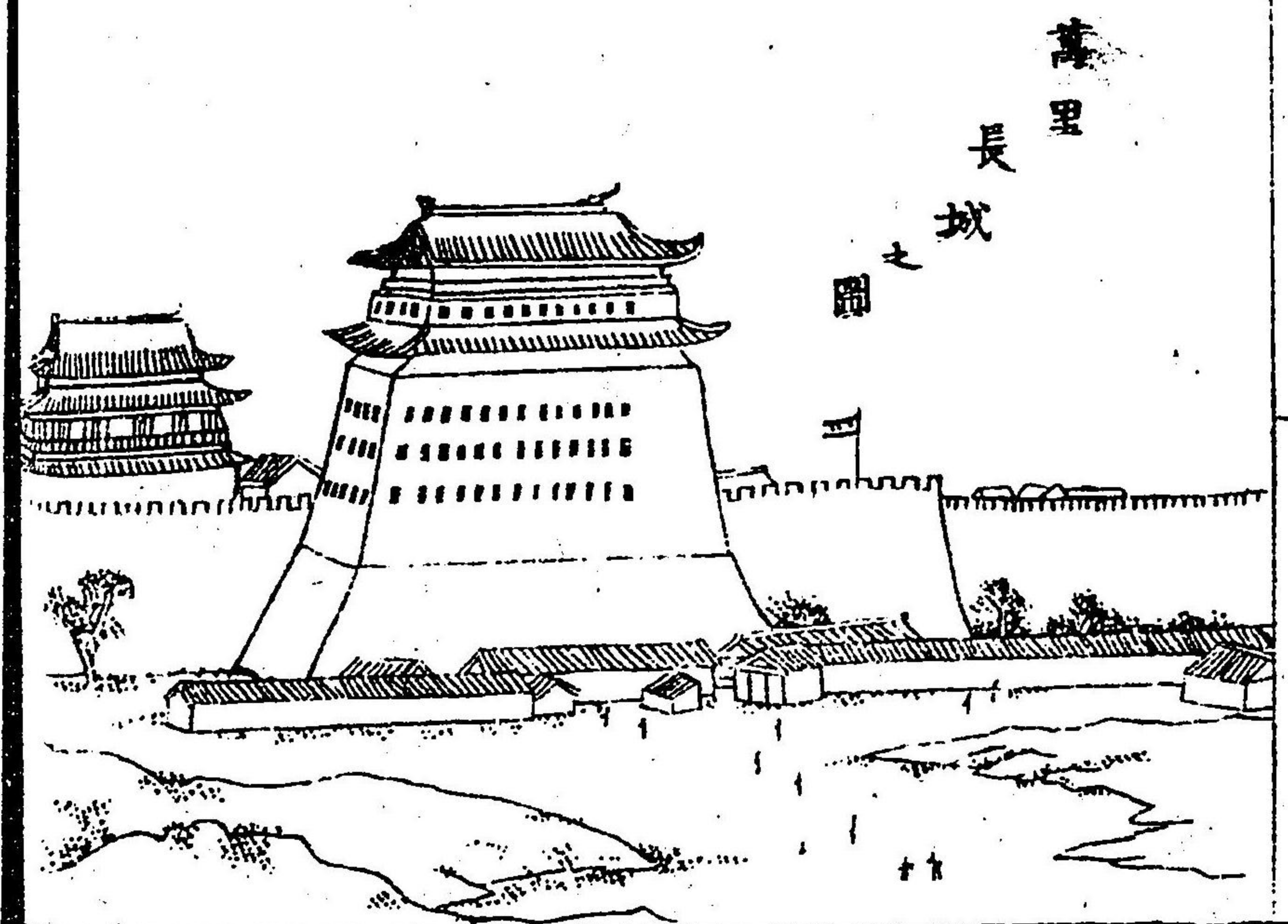
那國中も大なる成工を蓋

し小東より寧波を通り南部

の地一綿互一國中

横ヨコ凡オホ数カズ百里マイルなる五大イハの

運河の船路を便
 りせんと制先作
 人々を起せしと
 地球中最大と
 云ふつ 其の長



城を造りて利國の侵界を防
 禦し備んと極大の牆壁を建造
 せし其の長を五千里とし
 高さ二十五「フート」幅
 頂上より五騎
 肩をたたくて行走す
 尚

俗あり人民の性質を論じ最
も敏捷にして物品を造製すこ
と精巧なるを取状の顔色黄白
て面歡高く蒙古の人種
貴家の婦女もあ足を少飛

たきんと少足の時より巻糸綿
或は挟く木を以て束縛し
實に細少を極りし

支那が國の緯線二十度
より起り四十九度より至る緯線

支那婦人
方里あは
長崎以西九度より起り二十度
より至り少く総計る三十度也

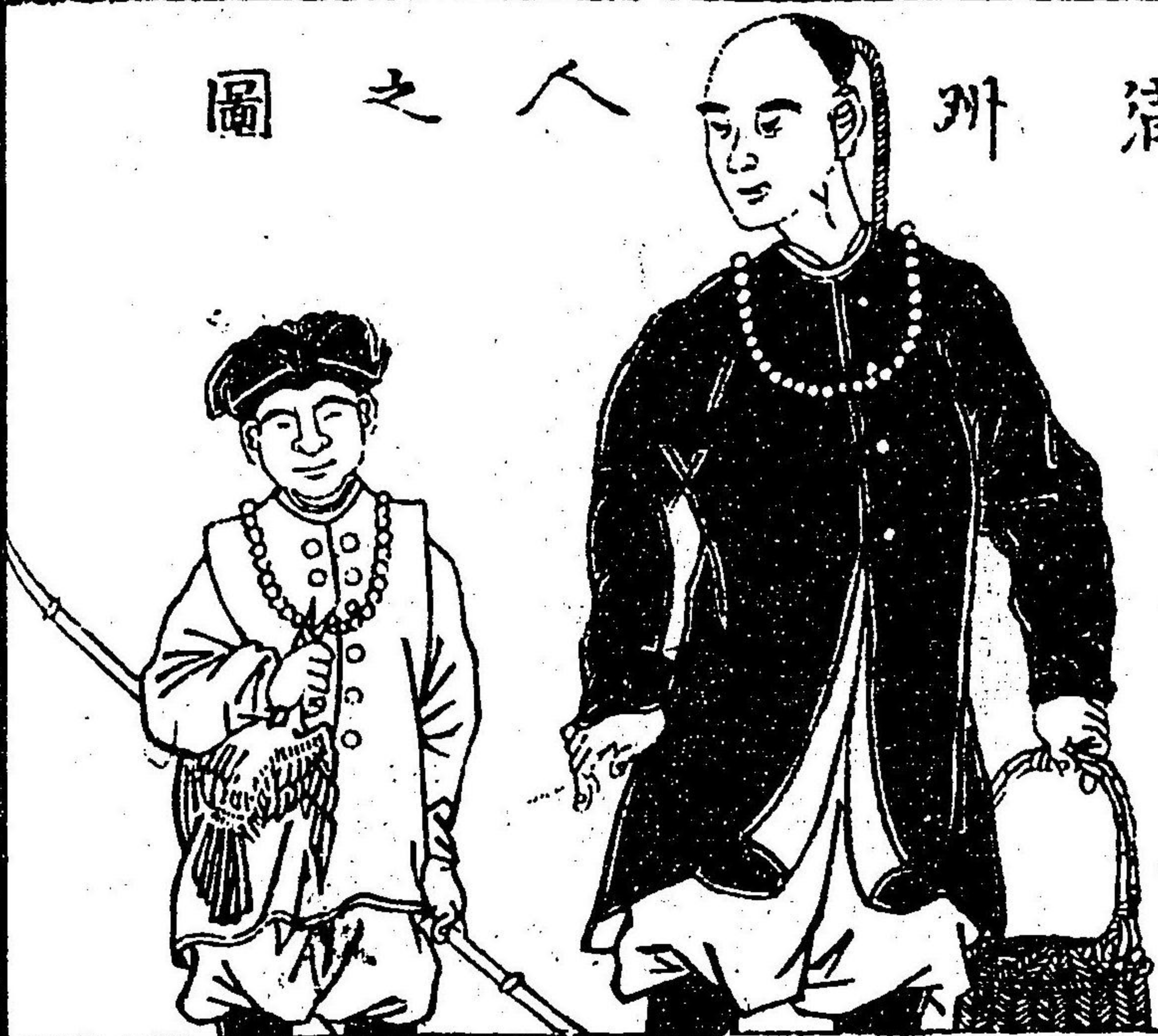


支那婦人

満州 ヨー

満州 少緯線四十二度
より起り五十三度より至り緯線
ハ長崎以東十二度より起り
西十二度より少く総計七十

滿州人之圖



美の多し
物産國の
北多し
一面意
樹林多し

人口約四百五十万あり
の耕地を生業とす
少の信託の徒なき
支那帝國の轄いたす
毎の極者の時支那帝

きそ首城より

君を廻る

物産の葉草

穀物類たる首

城 キリンオーラ 吉林 省



滿州錦

俗エヤニキト云

副王の住居 モウクデン 盛京奉天 天府

より古の地あり 朝鮮 國

及其富厚の積 基 此地

あり 且 國の西 方 大なる味

柵を 建 河 川 昔古國との境界

を
か
ち
あ
り

朝鮮國

又名高麗
コリア

朝鮮國を北緯線三十五度

より起り四十二度より至る緯線

を時以西生度より起り六度



朝鮮人

より止る七度里

計は約一百万

州の南

約一人の総計

約一百万

土地を偏く稼穡をかゝるを
支那及び日本の兩國より
とらざるも其地より其の國
の毎年を賣き曲を賣
兩國帝より細なる首城を
經て

道と稱し外國の通交
する物産は人糸棉布
金珠鉄錫等なり

蒙古國

蒙古國ハ北緯三十度より起

五十之度より毎の程
 程は七時以西に
 夜より起ると五十の
 夜より止む程計
 百四十里のあり



韃靼婦人
 蒙古

人々を約するありて
 農事を勤むる者馬生羊
 を物飼ひて生業とすは國
 中曠野沙漠の地頗る多し一
 程よりあるまじき貨物を搬

少くも馬を飼ふに用ふる馬を
のびた馬を飼ふに用ふる馬を
方解る馬を飼ふに用ふる馬を
の間馬を飼ふに用ふる馬を
その下を各城をカラユルと云ふ

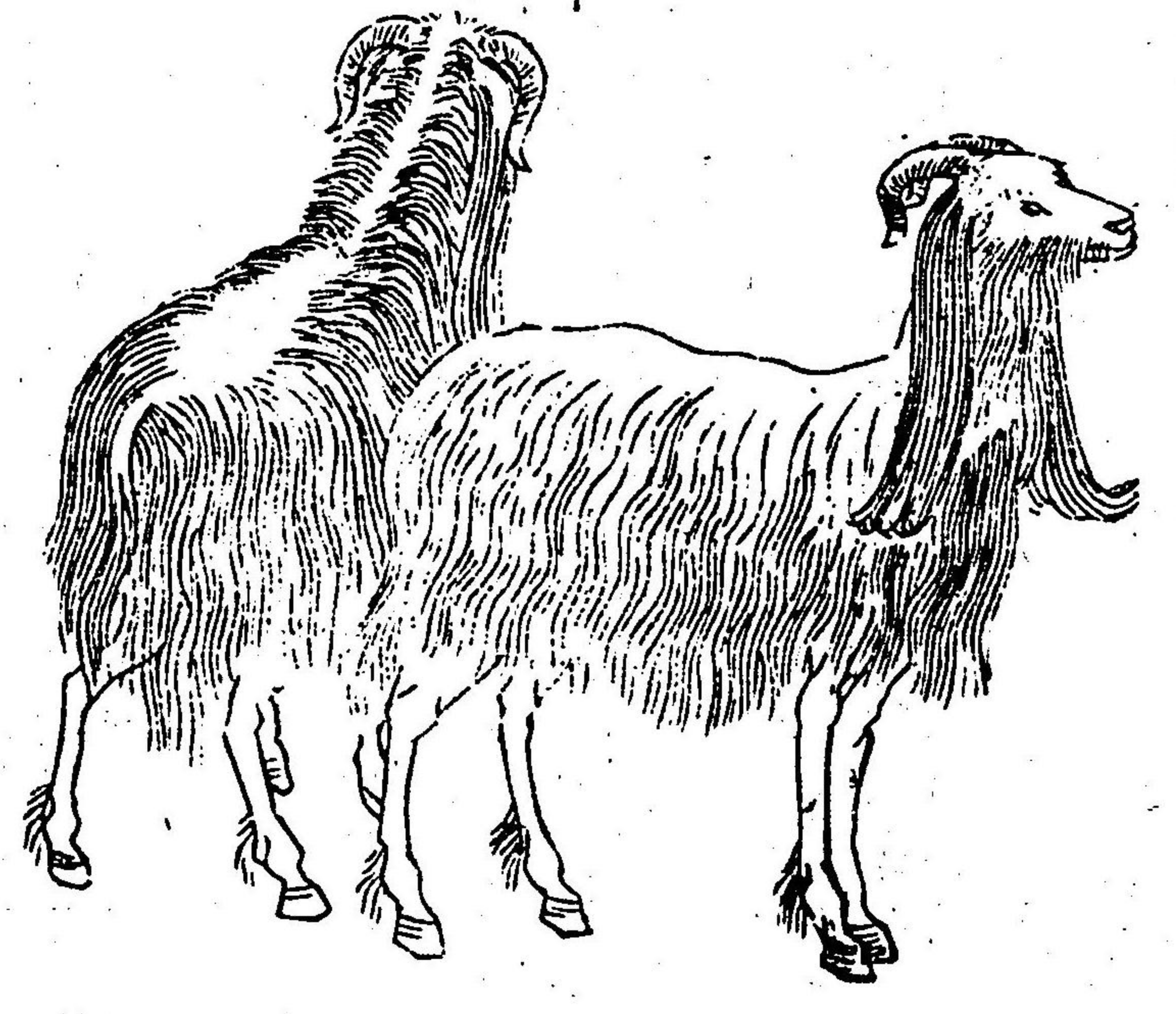
稱す。その著る事書の
地をいふ。又馬を飼ふに用ふる馬を
を飼ふに用ふる馬を飼ふに用ふる馬を
ヤと云ふ事

西藏國
ツチバ

西藏國を以て緯線二十一度
 より起り三十七度より止る
 経線は西二十九度より起り五
 十五度より止る但し總計
 七千餘の戸ありて其地帝

西藏國

羊之圖



其地大臣二員
 其地國事
 を執るは其國
 人ハ一妻を娶
 其地人

其夫と云ふは、
何れ数多あり、
其世に己の
言ふものも、
あもあかと
結とんじり、
實
よきとす、
旭似たる人、
口を

約三万五千の総計 あは

亞西亞洲中俄羅斯國 ルシヤイニア
シヤ即チ西比

ベリヤ
利亞

西比利亞國と俄羅斯帝國
の都府



西比利亞人
山獵之圖

の中間にアルタイ山及びアモール河
 の境界となす物産を白
 金、黄、銅、鉛、鉄、石、以外の礦物も
 出、黒
 貂、黄、油、海、程、物、狂、及び他の野

獣の皮、革、鞣、
 毛、等、輸、出、す、
 多、く、他、邦、の
 物、産、と、交、易、す
 此、地、の、人、民、の、種

類多様として其内大生を聖
靈なる重く射獵捕魚牧
畜を以て其生業と爲す此地
を西羅新國人民の犯罪
せしもの刑罰として礦山

に使役し又新地を以て開墾す
るたより西より此の流徒す
西比利五國を以て緯線四十
三度より起り七十一度より至る
西羅ハ其塔偏東六十度

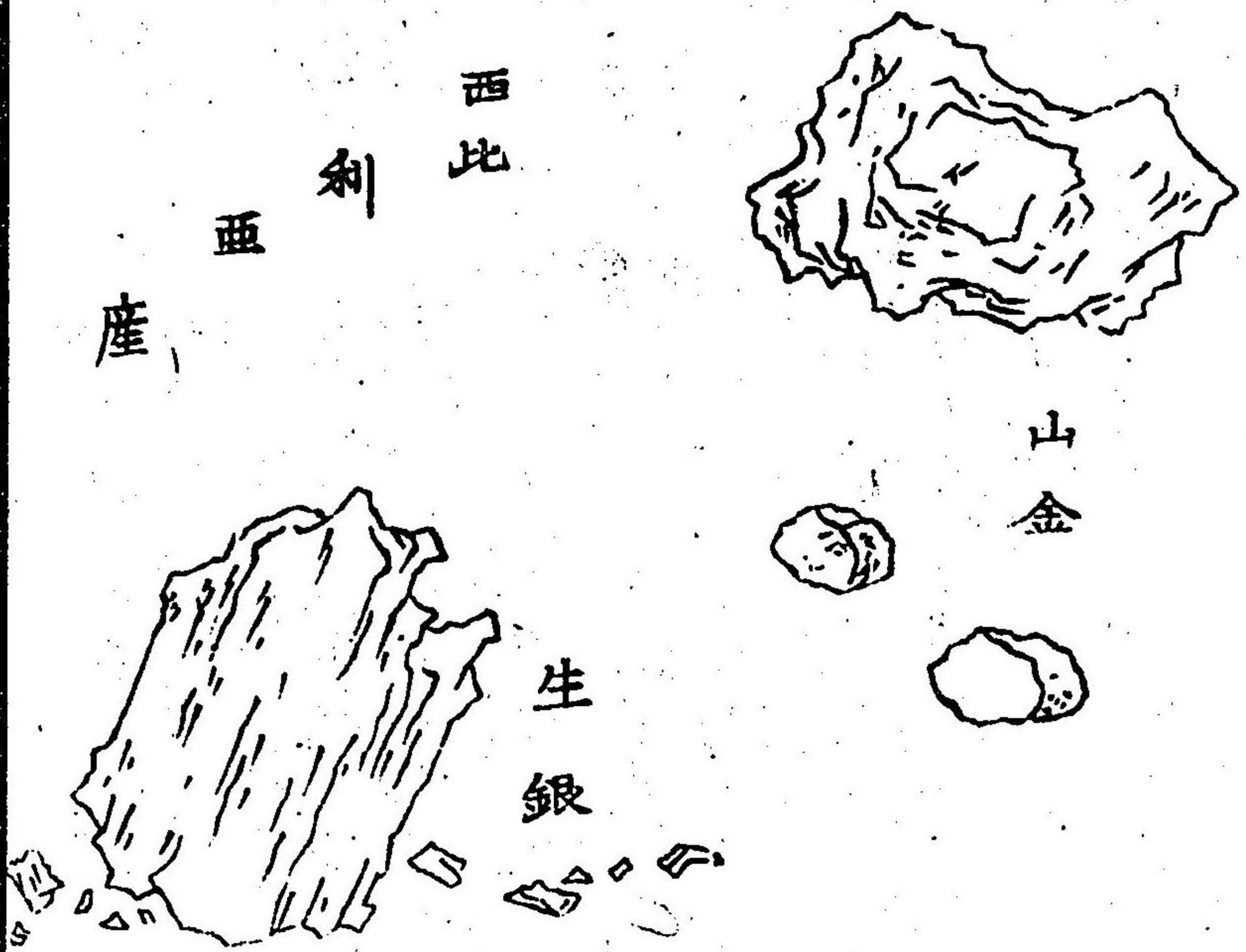
起又以西七十
 九度より其長
 十里よりさぬる里
 ありて總計五百
 六十里の方里あり
 善く一歐羅巴全洲
 ありたることニ分
 たり

天竺國

ヒンドスタン即チ
 印度 インデヤ

天竺は古印度國を西に
 海中南方より中間に
 半島を合する廣大なる
 國なることあり

ヒマラヤ山あり



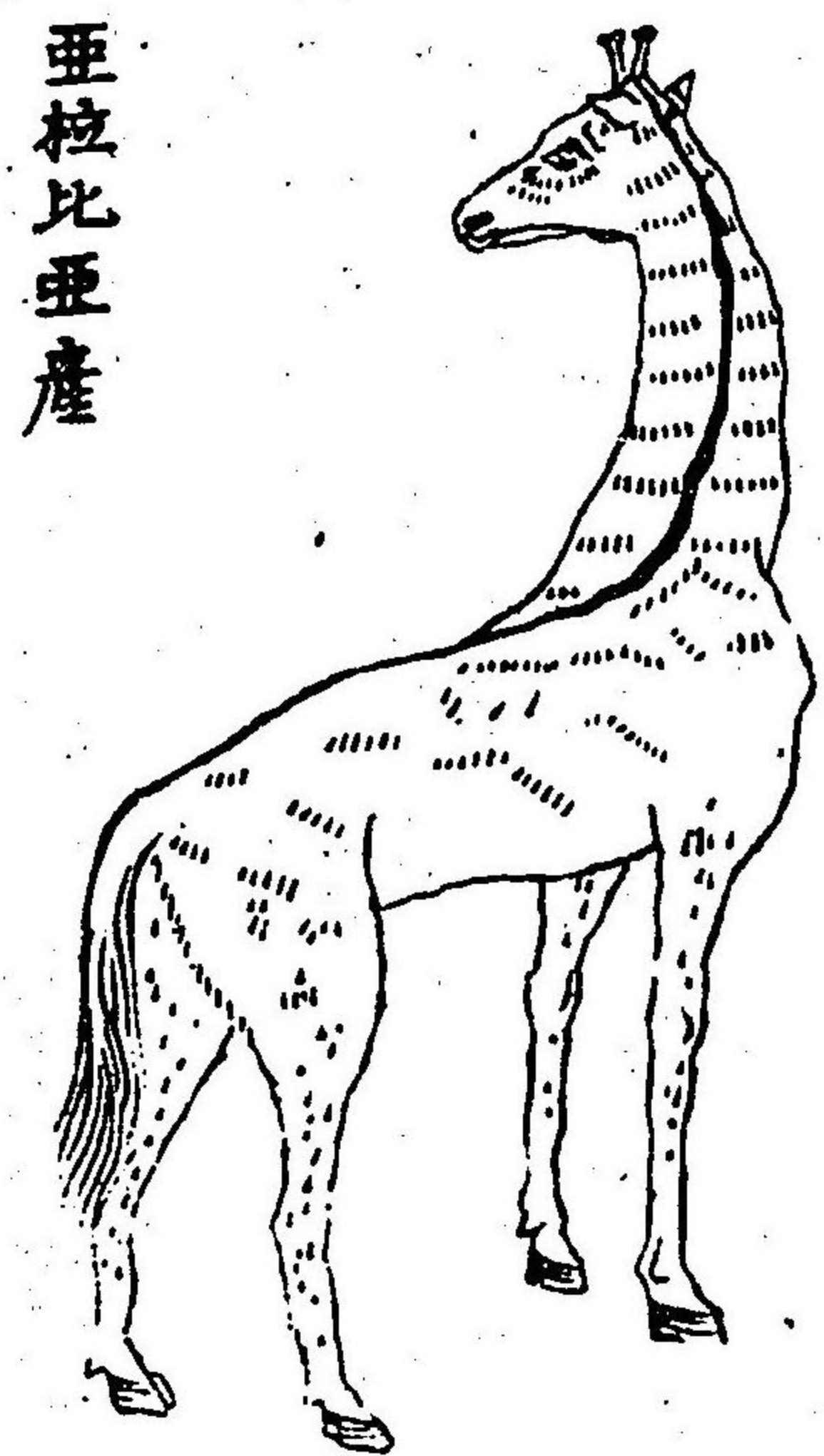


亞拉比亞產虎

豹



駝鳥



獵獅

亞拉比亞產

大布加利西國及び
 帝國轄下の西花國
 界す子ポールの内よりヒマラヤの絶頂
 たるエウレスト山を地味中
 一の高山として海面より二萬九

「ポルト」カち五里村の高あ

見全國を部うちら西

「ンガレ」カをン「ン」

南をセ「ド」カ「ン」

「ン」カ東城カ「セ」カ「ン」

の梅はカ「ン」カ「ン」

あはちカ「ン」カ「ン」

なりカ「ン」カ「ン」

あはちカ「ン」カ「ン」

地カ「ン」カ「ン」

物を其度々に細くし
る糖緞綿花青黛
科一果實(藥劑)昔の物
産あり又此畜多し
虎野と猪及び熊
人

口の後計一
萬蓋一人民を
女隸とす
可様温順
奸
報備の
教
禮を
衆人を
會合

大布加利亞産 五色大毒蛇



丁香



西印度 亞加業坦多産

肉桂



教 アラビヤ ニスム を傳述す能きも英國

傳 伝 教者 しやう を送 おく りて て 因 ゆゑ 耶 や

種教 しゆ を信仰 しんやう すもの多

あり此國の南方より大島あり

コロンセイロンの屬島 現今美國 とあり初 はつ なる

蘭國、所々所たる

天竺國の北緯、總長は

より起り、三十六度、北緯、經緯

は、緯、西、三十二度、起り

六十二度、北緯、其長は

九百三十三里、北緯、總計

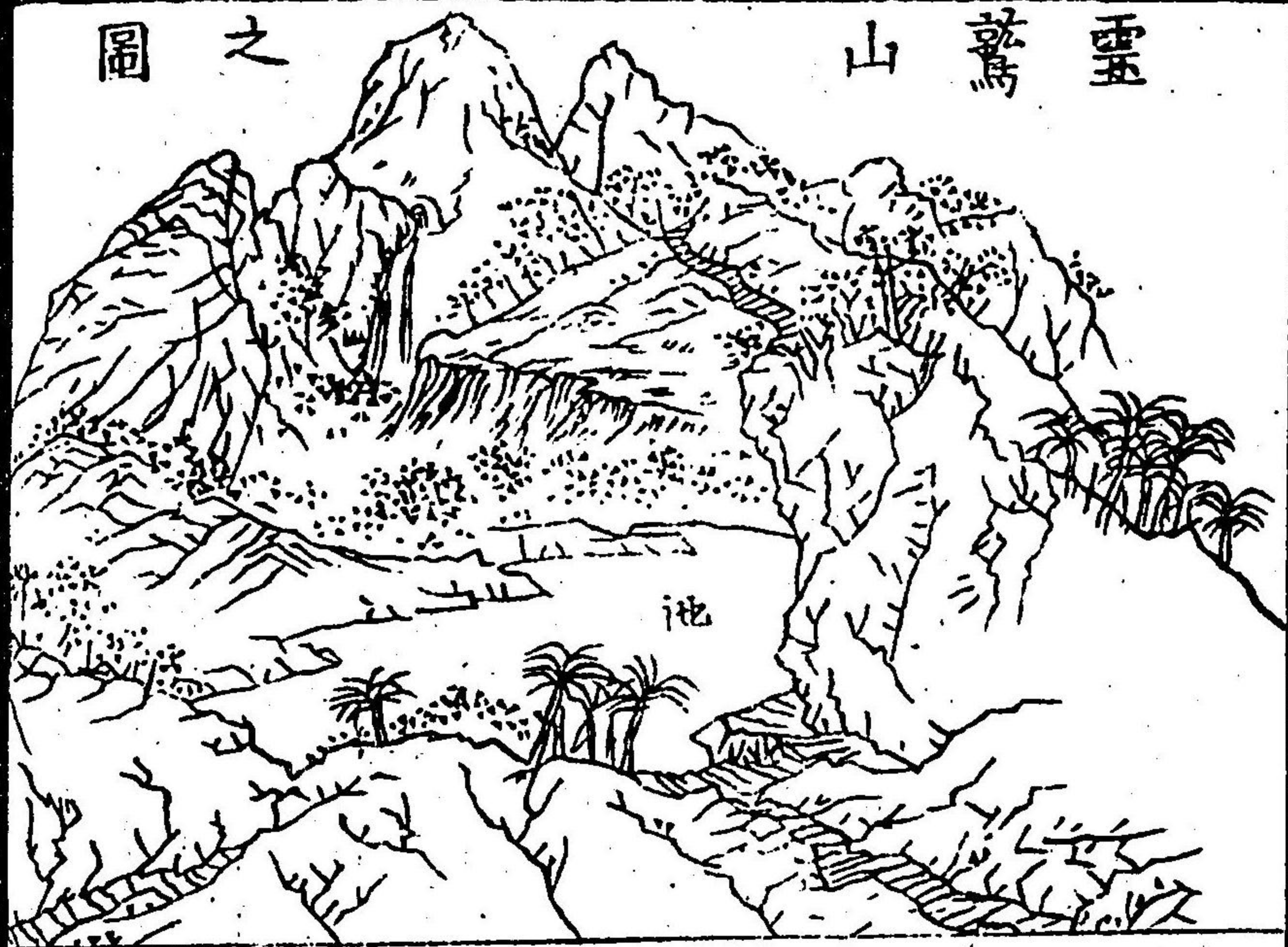
五十二度の、北緯、蓋し、廣大

なる、北緯、全海の、二分の一、北緯

天竺國東境、フルツル
イニテヤ

天竺國東境、北緯、五細、海中

靈鷲山之圖



東南の半島を
金甌國
に東支那帝
國の南方を位置
す善し西濱

是列邦 緬甸 國中央

緬甸 國 又名 阿瓦 乃ハ 東方

安南 國 又名 越南 南方を 暹

羅 國 乃ハ 府 甲 國

半島 其 在 乃 海濱

安南帝國

アナム又
名越南

安南帝國を緯線赤道以

北に度より起り二十一度より中り經

線より北緯四十二度より起り

二十四度より出る善一三部

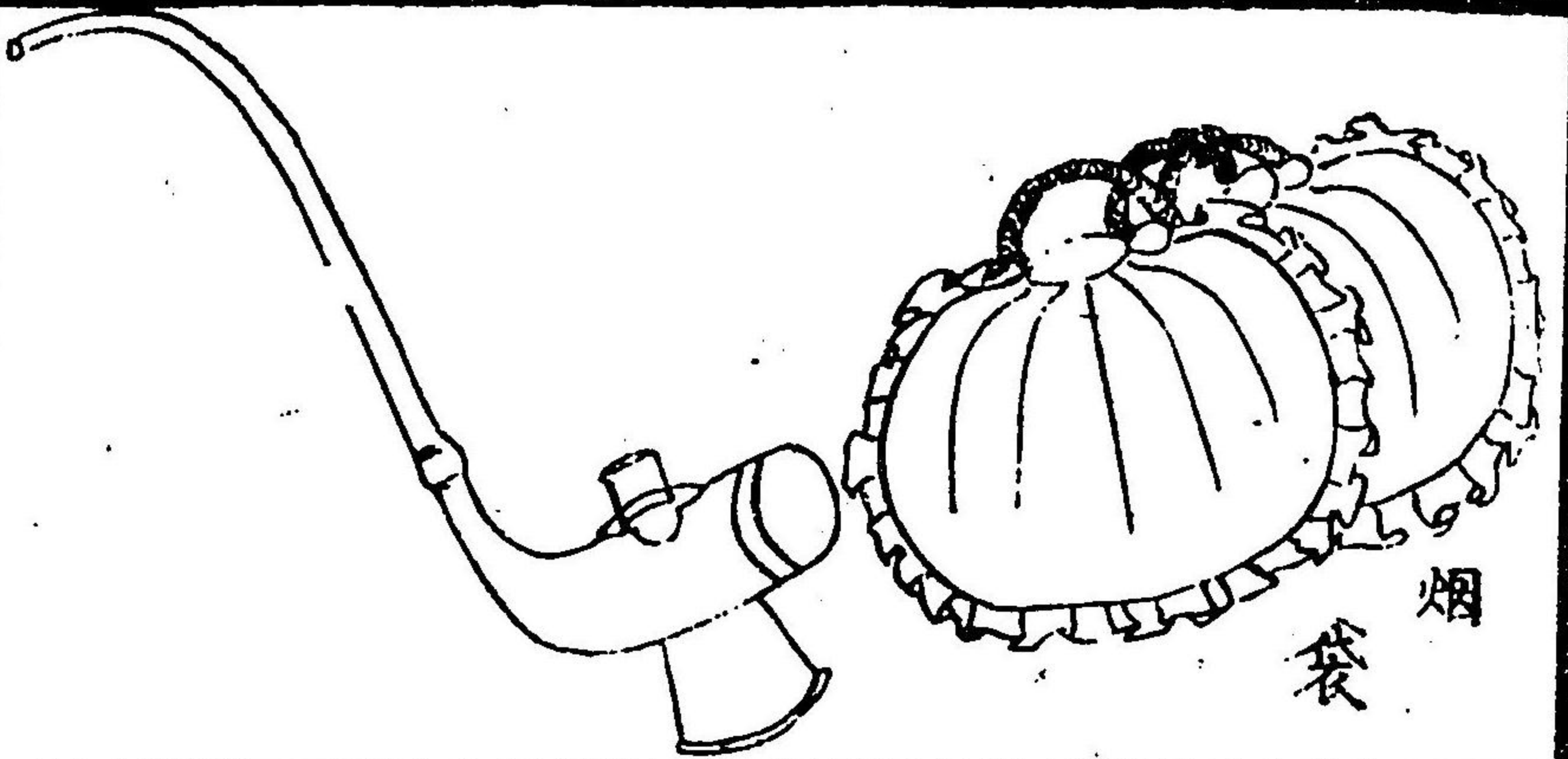
少多列一東東東埔

寡先提是なる人

口の強け 約一

百多より一東埔

順化たるより交趾多船



ユークシ
チヤイナ
と云ハ少部を稱一南部
カシホ
チヤ
を稱一お今を佛業
西國の轄合なる其の名城をサイゴ
と云

暹羅王國

暹羅王國も少部總十度
起り二十四度より至り經線
其地偏西二十度より起り三十
三度より至り出た但一緬甸安
南暹羅の三國を今世に

多摩の千里を
 暹羅國の人口
 強付約三百萬
 あると東城を
 國と云は國海峽



尾長猿

の人民をいふはありて大竹を
 基礎とて造りて宮殿
 の橋上より舟橋の舟
 あるの舟の舟の舟の舟
 蓋し舟の舟の舟の舟



夫^ウと^ハ一^ニ因^リて^ハ何^レも^ハ海^ノ水^ノ
 波^ノに^シて^ハ浮^ク
 舟^ノの^ノ如^クに^シて^ハ又^ハ男^ノを^シて^ハ
 女^ノを^シて^ハ賤^クと^シて^ハ又^ハ教^ヲを^シて^ハ

夫^ノ如^クに^シて^ハ死^ス
 其^ノ如^クに^シて^ハ埋^メて^ハ葬^ス
 其^ノ如^クに^シて^ハ紫^ノ草^ト
 以^テ焚^クに^シて^ハ大^ニ
 夫^ノ如^クに^シて^ハ又^ハ

の列邦
より早ら
せしむる
所
なり

緬甸帝國

緬甸帝國より
北緯十九度
より起り
南緯五十二度
より起り
西緯九十二度
より起り
東緯九十八度
より起り
経線長



阿瓦城之圖

城幅五十二度より
起り
北緯十九度
より起り
南緯五十二度
より起り
西緯九十二度
より起り
東緯九十八度
より起り
其人口の總計約
五百七十萬あり
城を阿瓦と云ふ人

民の性質を暹羅人の勝る
他國と異なるといふ
も唯の阿の古を差ひ
あり蓋し其君臣の名号を
唱へ或は其性名を呼ぶと

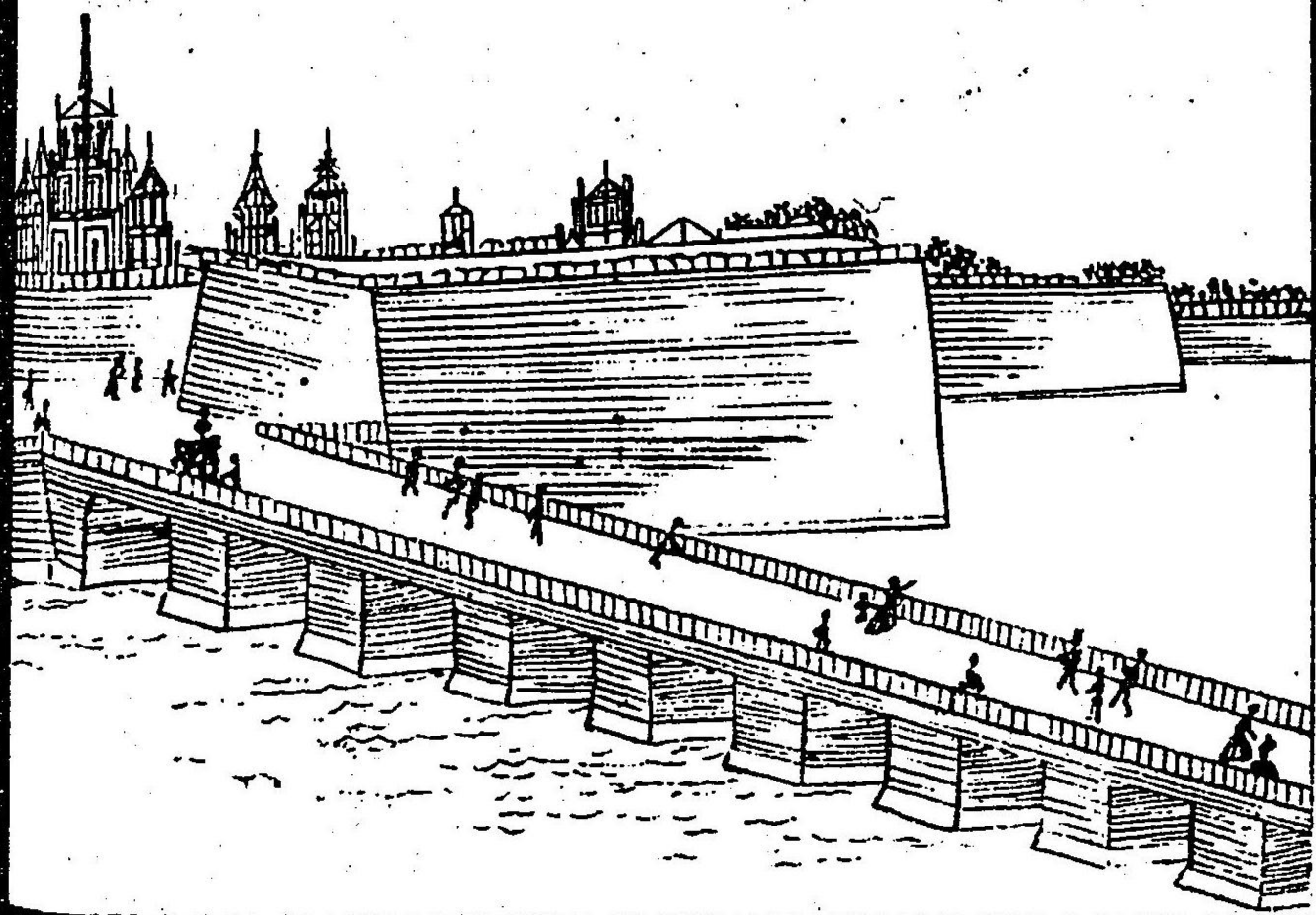
を國々禁の著犯すものあ
るをゆふかふ大辟のきりす
とふ

比耳西亞國 又名波斯
バルシヤ

比耳西亞國を土年其國東境

の東方よりあり
 北方より地中海
 南方は波斯海
 なる大國なり
 約一千萬の人口

比耳西亞大城之圖



此方極地の氣候多は熱
 甚くは寒くは田舎ありて
 冬季は極暑なり夏季は
 極寒なり及て西の
 土脈多は膏腴なり

甚く一般の穀物及ぶ菓實
 甚く其多し然
 東多塩沙の地多
 種一其名城「テヘラン」ハ「エルブルグ」山
 の麓ありて其人の住居あり

此造製物を婦人の衣服に
 毛織物中軍器利器等
 多し輸出品となす
 比身西五國より緯線あり
 度より起ると北九度より緯線

ナリトナ

其地崎偏西チテ夜ヲ起リ以
テ之度、出ルニ長クシテ三百里
トシテ、シ 亞細ヤノ方里ア
足蓋シ、シ 仙蘭西、シ 西班牙、シ 葡
萄牙三國ニ備セ、シ 此國を大

亞加業垣國

又名阿富汗
アフハニスタン

及波路

直坦國

又名俾路芝
ポトチスタン

亞加業垣國

及

波路

直坦國

加利亞國

の南方比年

比耳西亞猛獸獅之圖



西亞國の東方にありて南國なり
 亞加業恒國の人口を統計
 ありて印度より南たる城市
 「カブール」及び「カンドハル」を以て平ノ西亞國
 及び大布ノ加利亞國と印度國

との高物此地
 幅積ノ又波路
 直坦國の城市
 「ケラツト」も印度國
 とは耳ノ西亞國

よの通言たよ盛たる且堅牢
守後しよる城市たる波路
直坦國の人口の倍計の如
十萬差し兩國の人性勇
物しよる田土を耕

種すもる物とす又印度
國よ車輪もる馬羊等を
飼養しよる事業とたるを
阿富汗國の北緯線九
度起り廿三度とあり

緯ハ北緯ハ西ハ十度起
ニ七十九度迄ニ總計
二十萬の方里あり

波路直坦國ハ北緯一線ハ六
十九度起リ廿九度ヨリ至ク北緯

緯線ハ北緯偏西ハ十度
起リ廿九度迄ニ總計
總計一十五萬の方里あり

大布加利亞國

トルケスタン自主噠噠
喇即タインデペンダントタルク

クリ

大布加利亞國を以て第一の國
の東に「カスピヤン」海の東にあり
大國下は全國の人口を約四
分の一にして各自主の列國を
「キアシン」に稱する。其の年一はありて

其の制度を管理するは此の盛大
なる城市を「ボクハラ」國とあり同
名の城市なり。住民約十萬あり
人ありて廣大にして人物の群
衆たること此地を最大とあり

且貿易も盛ましく魚細魚
 油中回る教の門徒衆集
 せり其名高し此旅を
 河原に治する地を魚豆饒
 りして多の穀物果實を産

す 乾中 ホソハラ

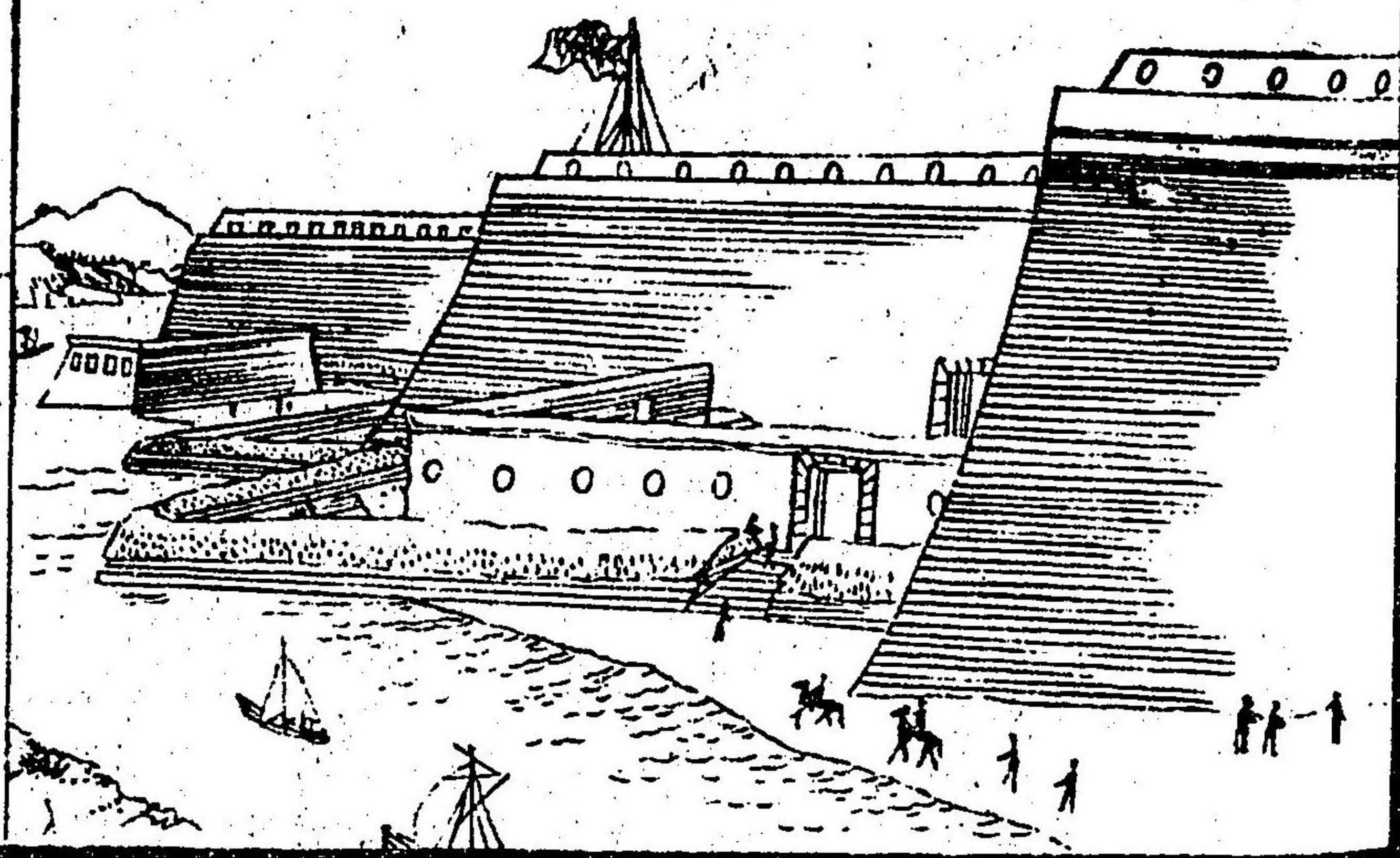
國を第一とす

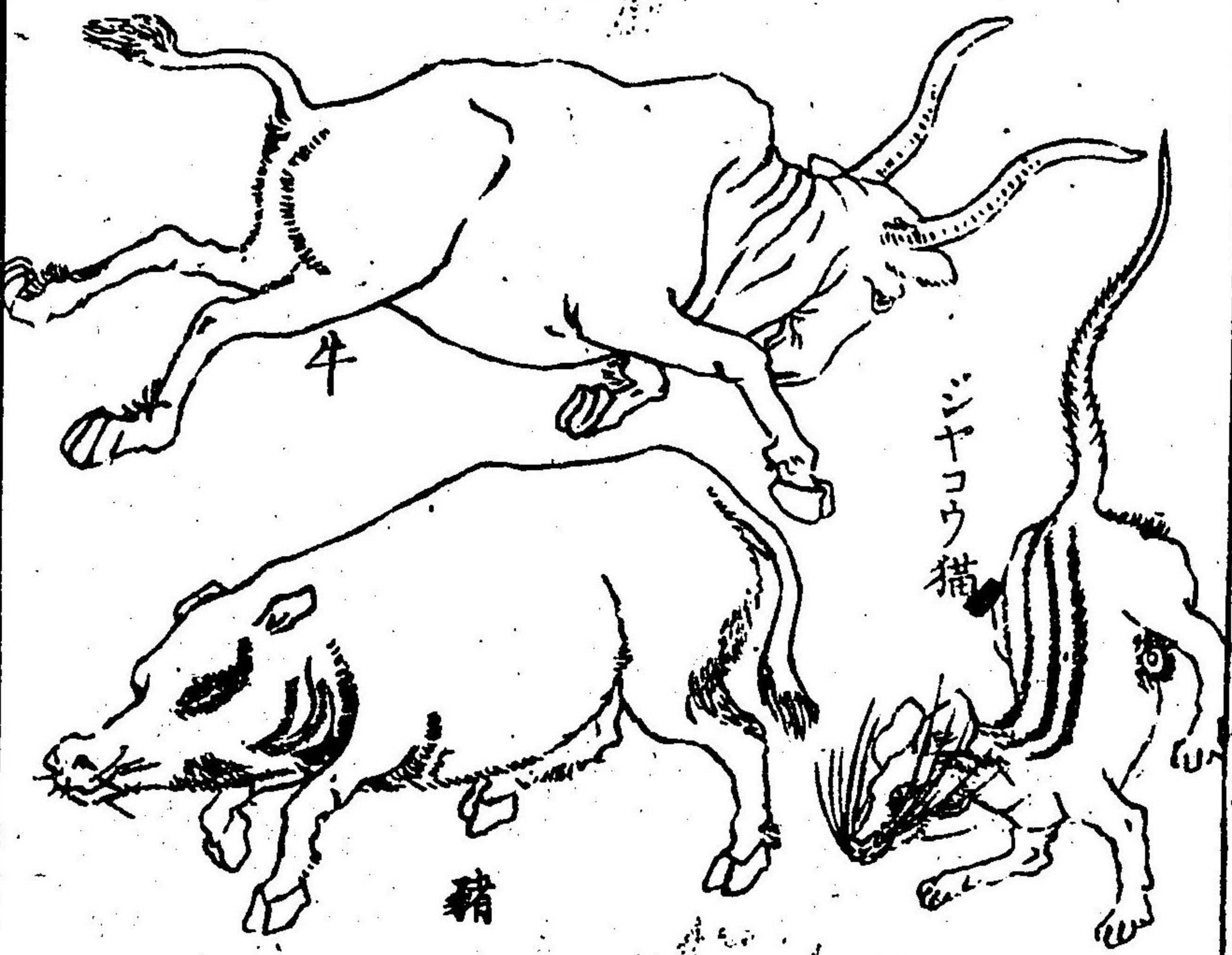
且西南の多小

廣大なる涼

豊かき多如

日本美観之圖





の馬^{ウマ}と他の^{その他}の^の獣^{ケモノ}
 類^カを^を飼^カ養^カす
 此^{コノ}原^ノ野^ノに^ニ住^スす
 る^ル人^{ヒト}民^{タビ}を^を畜^カす
 定^サむ^ル所^{トコロ}を^を飼^カ養^カす
 所^{トコロ}

類^カを^を畜^カす^スは^ハ他^タ家^カに^ニ従^ツじ^テ帳^{チヤウ}
 簿^ボの^ノ内^{ウチ}を^を住^スむ^ル所^{トコロ}を^を地^チ
 所^{トコロ}と^トす^ルも^モ其^{ソノ}中^{ナカ}に^ニ其^{ソノ}他^タの^ノ所^{トコロ}
 を^を飼^カ養^カす^ス所^{トコロ}を^を地^チ所^{トコロ}と^トす^ルも^モ其^{ソノ}中^{ナカ}に^ニ其^{ソノ}他^タの^ノ所^{トコロ}
 を^を飼^カ養^カす^ス所^{トコロ}を^を地^チ所^{トコロ}と^トす^ルも^モ其^{ソノ}中^{ナカ}に^ニ其^{ソノ}他^タの^ノ所^{トコロ}

華峯のあまの宮を久しき所
住むとたす

大布加利五國を以て一線

廿五度より起りの十五度より迄

陸線をも北緯五十五度

より起り七十五度まで止る

土耳其國東境

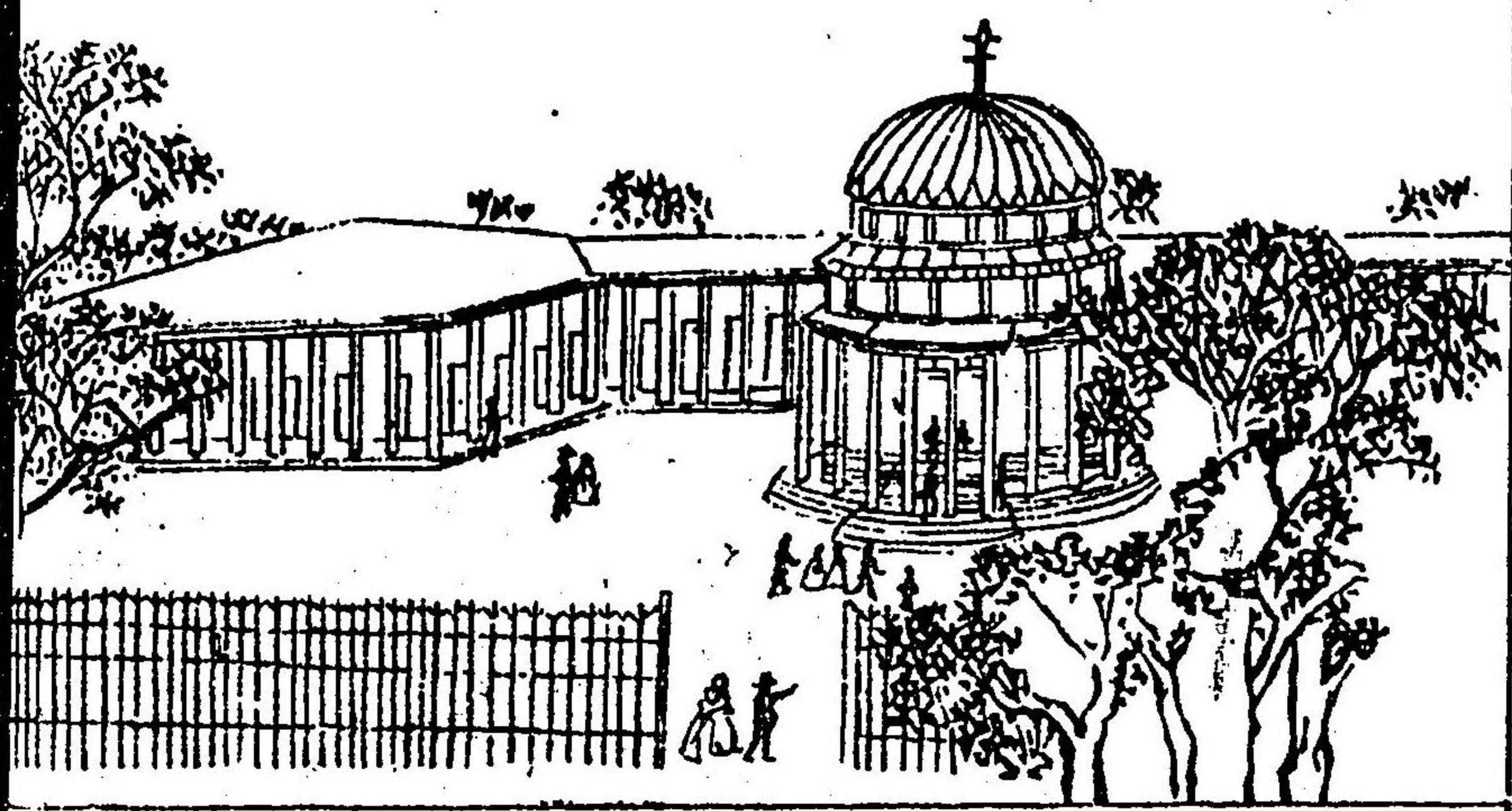
即チ回々國トルキイニア

土耳其國東境を以て其

ニヤメソボソミハ五洲五マイル及ヒバレステ

ち神國を命じたる「ア」の回大國

ハレステン
神堂



を色括一ニ條の

ち河ありて「チグリ」

コフラテ区と云ふハレステンを

祇園と稱するも

教主此地

又難を安んずるに云々

高き山南麓あり

アルメニヤ山及ハレステン

列たは古方此の地

聖人の家一舟を此地

の「アルメニヤ」の「アラハツト」
 山一少り又「ソロン」
 たまに生人寺院を建てて
 楠木を「バノシ」の山中に
 採りて
 今も名ある全國の人
 只終計約一万余を輸




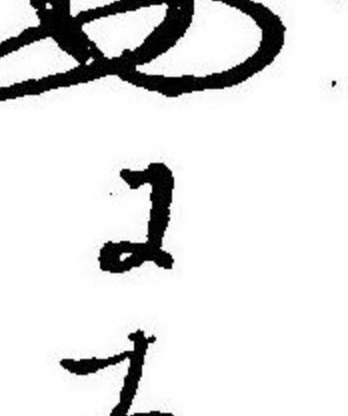
出品を物人の
 衣服を織る糸
 毛類棉花を
 子百般の菓食
 寺や茶巻



たゞ市を西通「イル」の西
濱に貿易場たる「イル」
しそに民ナキ人但
岩城を以て此の「イル」アレツキ及
ヒ「ダマスキ」も亦高用と爲る也
城

市たるは「セルサレム」城の名高き
し其故は「ユダ」の國たる「ユダ」
の東に「シロマン」の地
古侯の舊跡を以て也
「セルサレム」
近傍の「カルワリ」山を以て其主君を以て

あ、可なりは、然るも、現大なる者
時の、昔の氏、更なる、只、能く、言
る、故、の、所、は、福、せんと、す、る、事、は、
当、事、大、と、す、る、事、は、其、事、の
地、其、地、の、事、は、其、事、の、事、は、

四、、、、
少、緯、線、を、度、り、起、り、四、十
度、を、起、り、緯、線、を、其、地、偏、西
に、十、度、を、起、り、る、の、後、を、起、り、出、る
事、を、其、事、の、事、は、其、事、の、事、は、



〜〜 遜 け の 子 女 美 の 子

星 あり

亞拉比亞國 名亞拉伯 アラビヤ

西拉比亞國より西細亞の油の
 西南半島なる大國にして西

其國南より西の
 西水利加海
 へのりて西海なる
 ことなるす大橋申
 尖る沙渚廣大

一、水海軍兵を主として
 南方を美地として人を金國を主部
 多く石炭地として地脈の富
 餘りを後地と名をとして
 城市を七百の代回を主として

祖マホメットの生地マツカら及び

其の美地たるメデナーたる外ハスカツ

このアイマンはまの回教の領地を首城たるハス

カツト 紅海を主として大きなる埔頭

一、海軍を主として 咖啡の生産

産ありて名馬也

モナコに在る此地の

アーデンを以て

路ありて英國

阿一堅牢

獲し去るは船の捕りたり

駝駝驛子及び種の名

馬ありて常帯修補の運送

驛子を用ひて

駝駝を以てす全國の人口



人馬

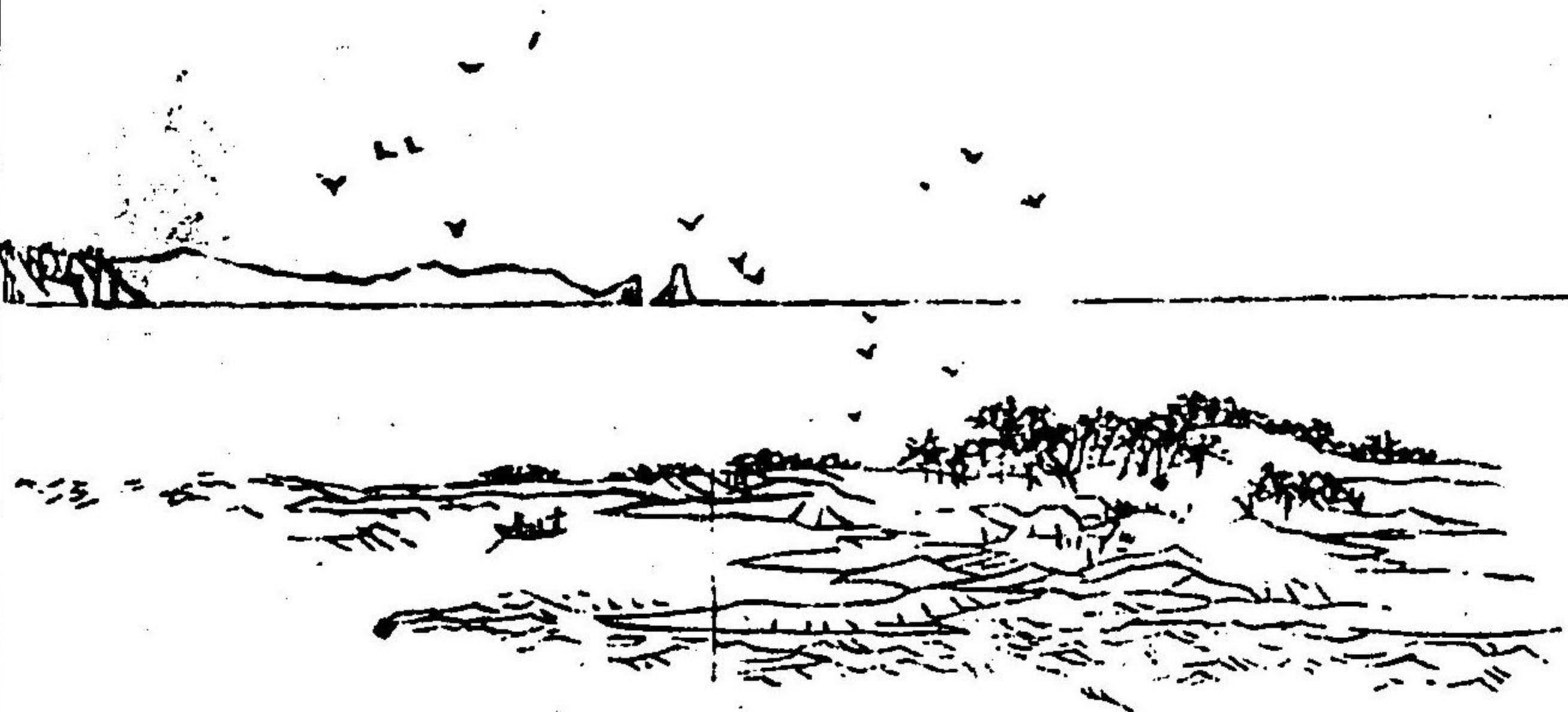
ありて 小緯線

の午四夜より起り五

十夜より起り 経線ハ

七橋以北十七夜より

起り 二十夜より



総計 約三ふの方里ありてカムトチ

ヤツカ 國 本より緯線五せし

海小島の群島なるは西日本

より西三島より本島 國

より西一餘を総てイルクツスケ

の 崇 羅 新 國 政 府 の 官 廳
善 任 民 を 漁 捕 を 爲 物
毎 日 稿 毛 の 貢 を 政 府
進 出

「サハリー」島

「サハリー」島を以て緯線四十度の
より起り五十度の度まで経線
七度の緯線十度の度
より起り総計四十度の度
里を以て極東の北緯の海

滿州、獵人



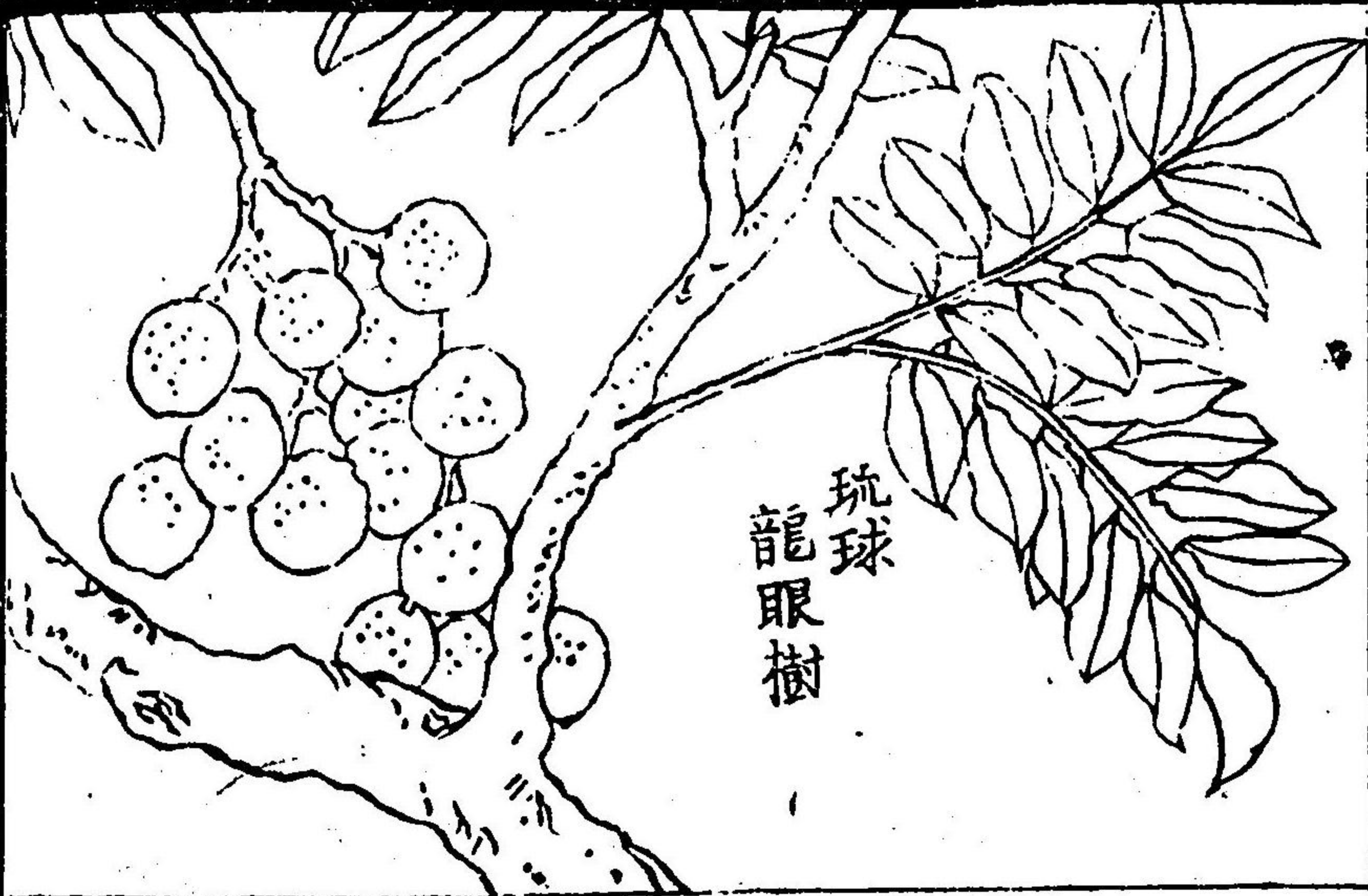
少長の島に
此地を来り諸
人の福を乞ふ
所なるに能くも古
時より少部

支那國南方より本國より素封
せしむる人民も多し溪魚

を生業とす

瑠球島

福地島より北緯線二十一度



琉球
龍眼樹

陸路、其橋偏西

ニ度上よりありて日本

國と臺灣島支那

の百よりあり長さ六十

五里より外に凡そ

三十五箇の少島を包括

後計、其の方里あり蓋

少日本帝國に屬す確

も亦其の帝國の管轄

て物產を公物琉球皇室

高寺たかしら

セラルヂヤ國

セラルヂヤ國を緯線赤道以北三
十九度より起り四十度より出
る緯線より北緯七十九度



亜細亞
大ワシ

より起り九十九度より出
る緯線より北緯九十
度の方里ありて
黒海とカスピヤン海に
中間より南方より

比耳^ヒ海^{カイ}五^ゴ國^{クニ}少^シ力^{リキ}多^タカ^カ力^{リキ}レ^レユ^ユス^ス山^{ヤマ}
 歐^{オウ}羅^ラ巴^ハ洲^{シュ}我^ガ羅^ラ新^{シン}國^{クニ}
 境^{サカイ}界^{カイ}下^{シタ}る^ル國^{クニ}内^ノ山^{ヤマ}嶺^{リョウ}重^{チカ}疊^{タカ}
 柵^{サシ}母^ボ信^{シン}醫^イ師^シ下^{シタ}る^ル差^サ地^チ
 船^{フネ}渡^{ワタ}下^{シタ}る^ル麥^{ムギ}稻^{イネ}稻^{イネ}米^{コメ}大^{オホ}麻^{アサ}

亭^{テイ}麻^マ等^{トウ}の物^{モノ}産^{ウツ}有^{アル}人^{ヒト}口^{クチ}絶^{ツク}
 計^{ケイ}約^{ヤク}三^{サン}十^{ジュウ}萬^{マン}一^{イチ}千^{セン}一^{イチ}百^{ヒャク}一^{イチ}十^{ジュウ}一^{イチ}十^{ジュウ}一^{イチ}十^{ジュウ}
 牧^{ボク}を^ヲ力^{リキ}生^ナ計^{ケイ}と^ト下^{シタ}る^ル首^{ウチ}城^{シロ}
 テ^テア^アリス^{リス}と^ト下^{シタ}る^ル質^{シツ}多^タ産^{ウツ}と^ト下^{シタ}る^ル湯^ユ泉^{セン}
 あ^ある^るを^ヲ以^テ其^{ソノ}名^ナを^ヲ名^ナす^ス

「コバル」及「アングマ」諸島

「コバル」諸島より小緯線より

起るとして及るまで経路は長崎

以西三十五度とありて総計

の四百のありは、はる麻六甲國



の西の印度洋

ありて「アングマ」諸島に

「カ」湾中、小緯度

十五度とありて及る名

ありて是れ「ア」

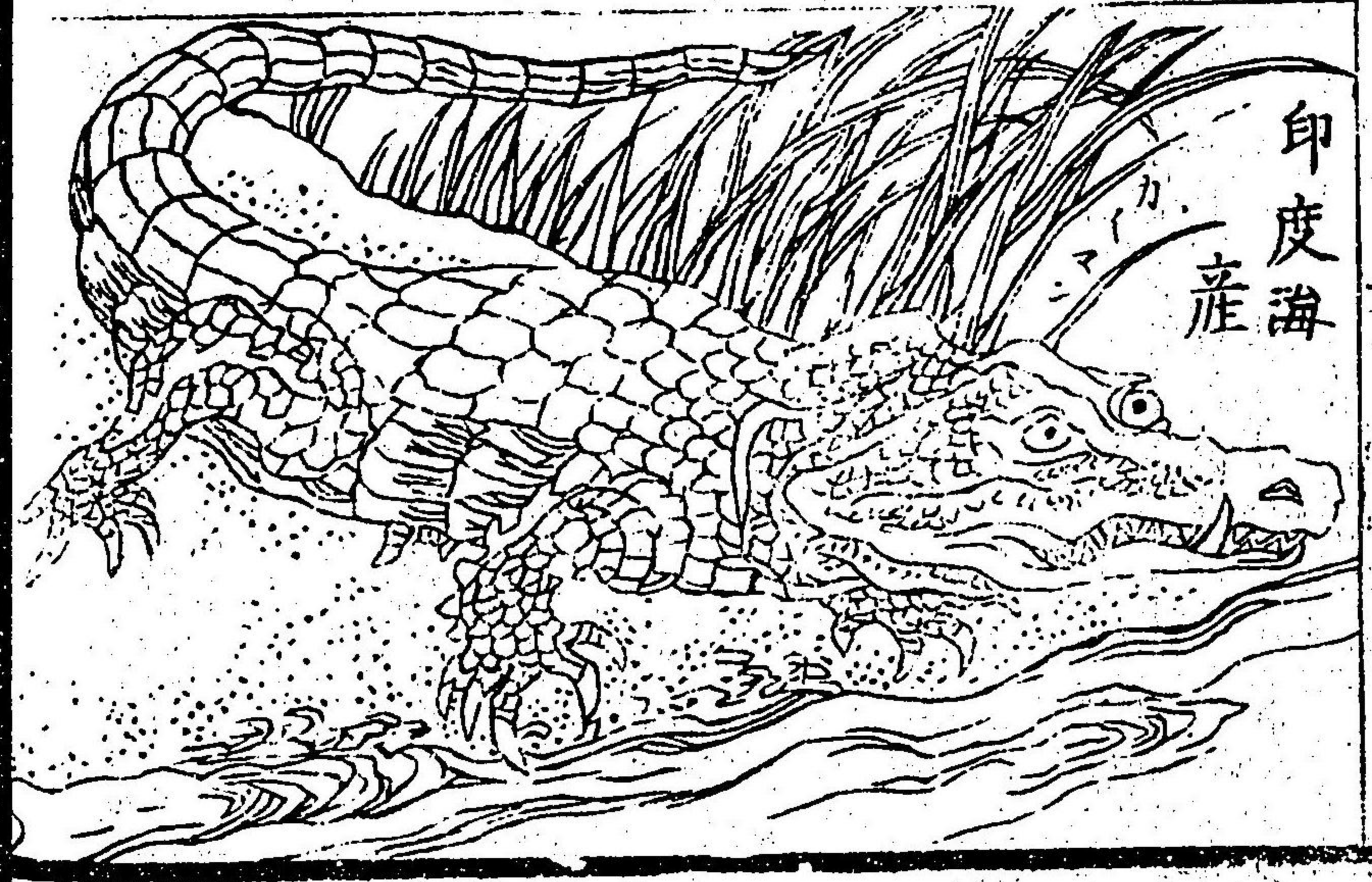
上船膏棟カク一カク住氏カクを聖人
下より各船カク「ヨコ」島カクより各船カク
る葉を以て糸カク子カク四箇又二箇
紗カク一「ヤルト」曲尺三尺二寸五分計を以て各箇
の價カクと一買カク行カクたるを糸

煙草を以て地カク布通の交易品
とするを糸

カルク「及ビ」ラツカシ 群島

カルク「及ビ」ラツカシ 群島を緯線
とするを糸 送カク以北カク初カク夜カクより十夜カク小

緯を經線に考
 以て西五十度より起
 己五十度より止り印
 度國の西南印度
 洋の西部



印度海産

島々の大郡たる是蓋
 島の一點を其主宰之を
 管轄し毎島の秀をセロン島
 にある英國政府より
 の由「ユウリス」と稱する貝殼を債

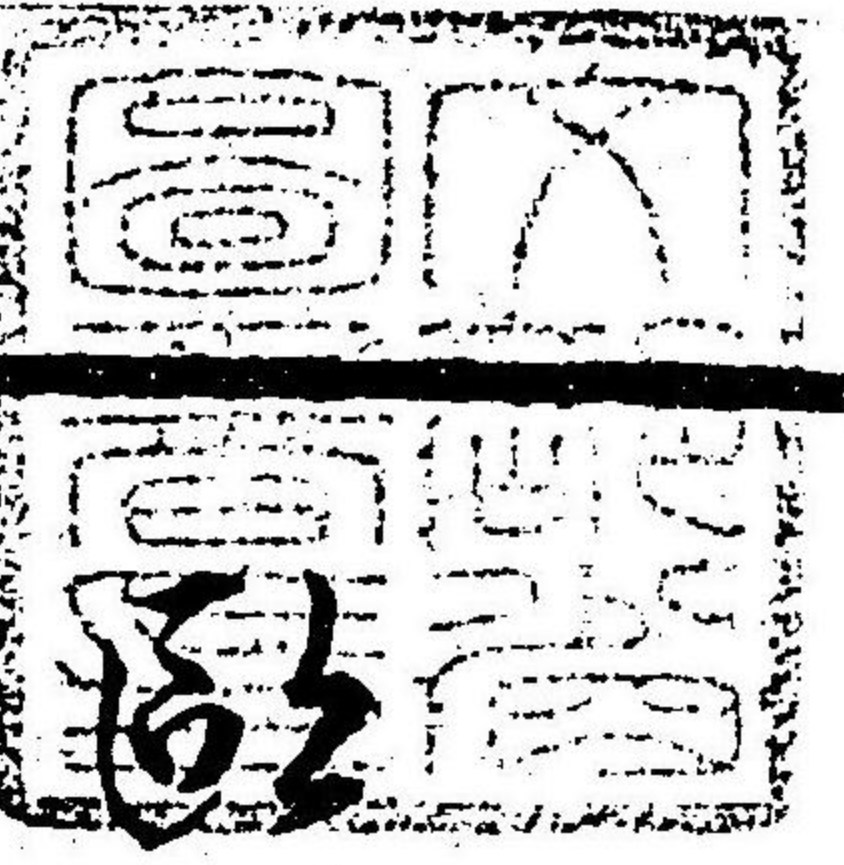
為進開化秉筆奮
文明地字昌書學就
之立起程

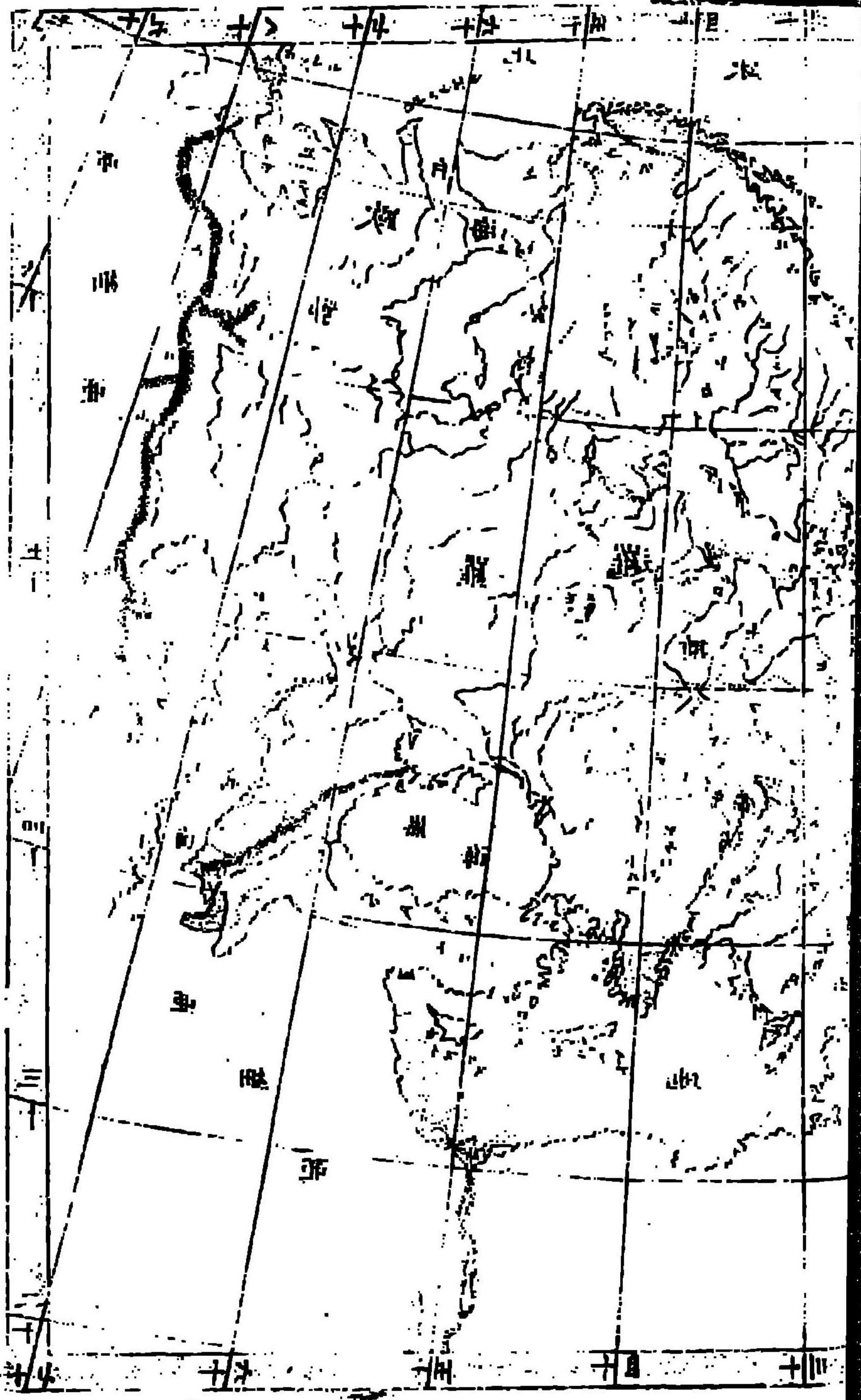
桂巖溝口恒題



歐羅巴大洲之說

歐羅巴大洲者地球中之大
洲の内第一以少部なる事
と権威強大なる博學文
明なる之也何の及所
其主なる若邦及名城を





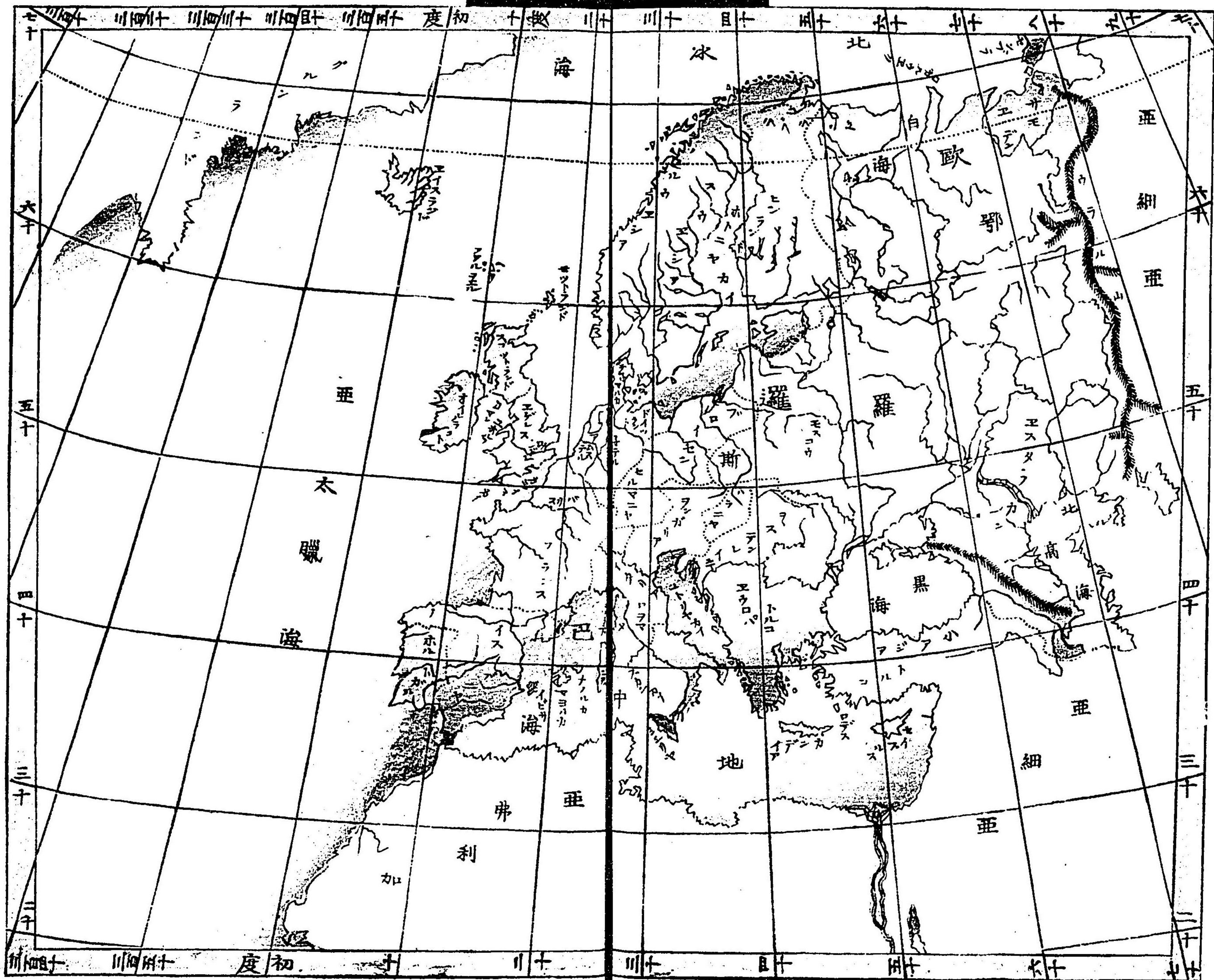
羅列也

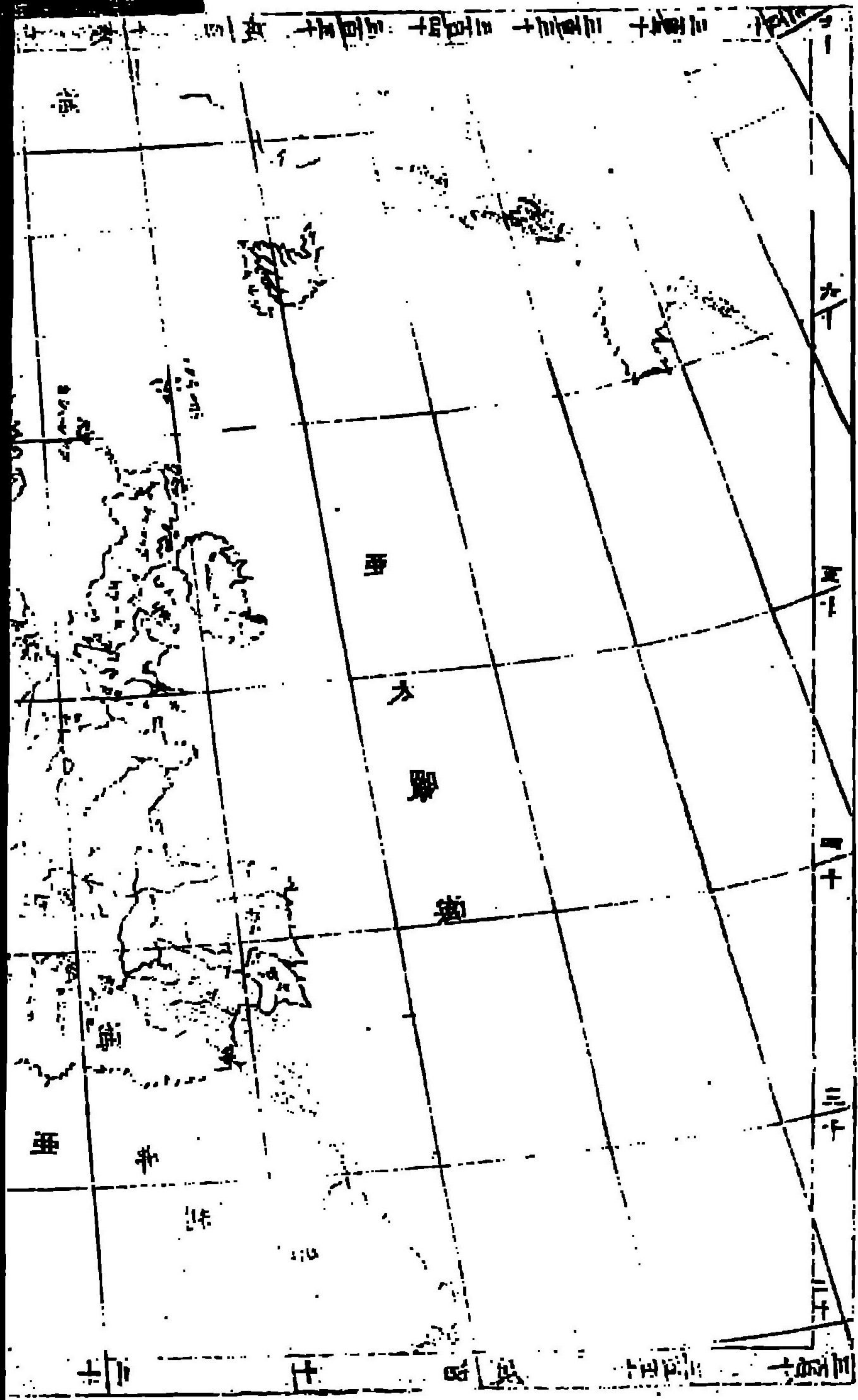
紀元二千五百二十三年三月

多之在之梅葉一子為柳

軒之南憲の富山堂大相極座

海





地學往來卷之二

歐羅巴洲之部

目次

蘇以天國 又名瑞典 スウェーデン 及ヒ 挪耳國

國 ノルウエー

連嗎 デンマルク

俄羅斯國 ルシヤ

普魯士國 プルシヤ

奧地利亞國 オーストリア

破蘭國 ポワラント

日耳曼列國 ゼルマニー

拔利亞國 日耳曼列國内 ハワリヤ

薩孫 全上 サキソニー

酋天頗爾國 全上 ウルテンブルフ

拔爾真國 全上 バーテン

瑞士國 又名 瑞西 スウヒズラント

英吉利國 インゲレス

仏蘭西國 フランス

伯利士國 ベルギー

荷蘭國 ホルランド

西班牙國 スペイン

葡萄牙國 ポルトガル

以太利國 イタリア

土耳其國 西境 ユーロピヤントルキ

希臘國 グレース

歐羅巴洲、亞細亞洲の西、亞北利
加洲の山、海を緯線と赤道
以北、赤道より起り、赤道より
至り、経線、赤道、西、南、北、東

より起り五里下度より五里出の其長さ
三の四百里廣と二の四百里より
後付二百里十葉の万里あり

蕪以天國 スウエーデン

椰身田國 ルウキ

蕪以天國及の椰身田の兩國ハ千

五百十里の 文化十 一甲伐 併て 王の管

轄の地あり蓋し歐羅巴洲西

北の半島を金と其人口

約五万五千二萬あり蕪以天

國の氣候を冬は長く夏は

甚し夏は暑く其間極



礦穴ノ圖

了得煖なり農作可なり
 但一佈山嶺多し
 物貯為なり
 積陳境あり山林佳木を産
 礦穴多し
 銅鐵銀を
 生ずるを以て西國人民の生計

とたす種以乞國の東城「ストックホ
ルム」を「教雄」の島を以て「本務
を兼け」て「役あり」其「信民」を「約
す」茶人「擧手」回國し其「所あり」
「岩あり」ス「カンデナウ」ヒ「ヤンアルプス」と稱す其「島」
の「名あり」其「中間」を「あり」其「岩城」

を「キリスチヤン」チ「ヤ」ト云「約」茶人の「位
民あり」少「城」なり「ラプラン」ドを「西羅」巴
洲中「極」少「あり」其「所」を「以て」
「急」務「なり」其「中」に「九月」月「の間」
「常」に「積」雪「あり」其「國」の「西」あり
「り」極「北」の「地」あり「て」其「東」方

魯西至^ヤ周^ス此^ニ地^ニ之^レ友^ト凡^ク
一^ニ日^ノ生^ルリ^ト得^ルク^ニ又^ク時^トも全^ク
く日^ノ出^ルル^ニ其^ノ心^ヲ他^ノ方^ニ異^ス
くあり蓋^シ一^ニ此^ノ地^ノの^レ一^ニ分^ノに
ち^ハ水^ノ極^ニ至^リ日^ノ距^リ離^ル處^ニ
同^ノ級^ノの^レ緯^ノ度^トなる^ニ各^ノ緯^ノも^レ然^ル

是^レも土^ノ人^ノを^レ才^ヲ能^ク矯^ム以^テ胆^ヲ
大^ニ雄^ト壯^トたり且^ニ慣^レ習^ス乃^チ心^ヲ剛^ク
き甚^ク汚^レ穢^クたり悖^レ乱^スと極^ニす
數^ノ事^ヲあり^テ其^ノ因^ヲを^レ心^ニに^テ乳^ヲ
を^レ飲^ムる^ニ其^ノ味^ヲを^レ着^セ且^ニ人^ノ民^ノ
使^ハ牛^ヲ一^ニ此^ノ名^ヲを^レ用^フと^テ雪^ノと

平滑なる橋を海にせしむ
捷なるを死にせしむ
河川土地
の名称と云々

種以て國及び郡耳回國を
緯線赤色以北五十度
起り七十度より経線長

崎以西九十度より起り百二十五
度より止る其長を約む一
里と云々 廣さ四百五十里
總計廿九萬三千里の方里
種以て國を廿七萬
千回國は十二萬三千里の方里

たが

埭尼國

又号 連嗎 テンマルク

埭尼又連嗎國をバルクチック海にて

「ジーランドフリー子」島等歐羅巴大陸

即ち中間の地を「ジエトランド」及び北

洋の北を「バル」島アイスランド等其

内とあり氣味は布束を以て

堅固にして地脈は平を以て

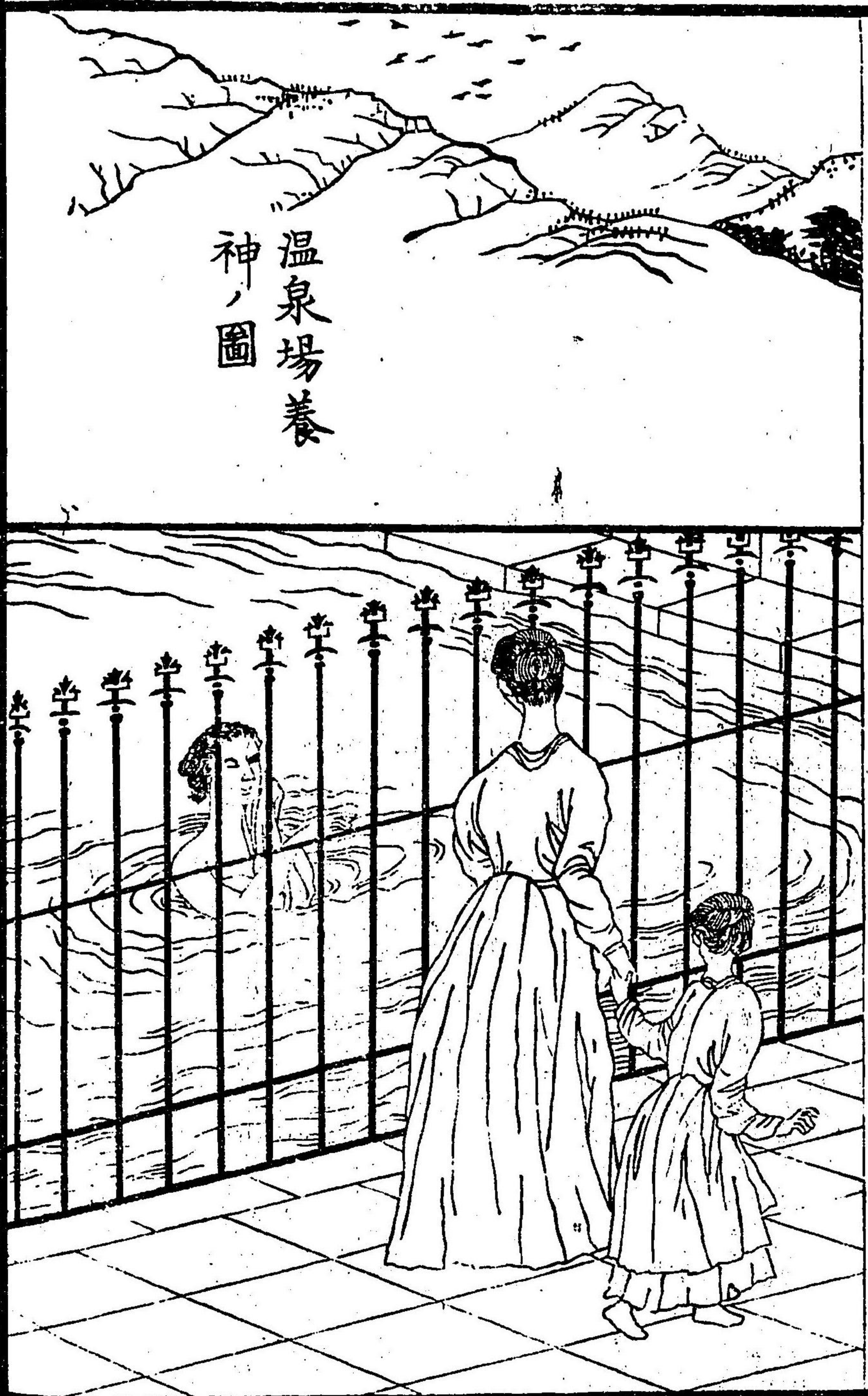
多量の産物を産す人の総

計は約五万ありて京城

を「コーペンハーゲン」の城に

して十萬ありて人の住民ありて

温泉場養
神ノ圖



スラミ^シ「^シセルス」^シと^シ唱^シる^シ温泉^シ又^シ南^シ溪^シ
 一^シ里^シの^シ大^シ山^シの^シ
 多^シく^シあり^シ「^シハル」^シ島^シを^シ大^シ
 海^シの^シ小^シ舟^シを^シ用^シて^シ「^シアイスラン

「^シスコットランド」^シの中^シの^シ海^シを^シ「^シグリーランド」^シ
 一^シ里^シの^シ大^シ山^シの^シ多^シく^シあり^シ「^シハル」^シ島^シを^シ大^シ
 海^シの^シ小^シ舟^シを^シ用^シて^シ「^シアイスラン

濱^{ひら}の^りつ^と住^する^は海^{うみ}濱^{ひら}を^し鯨^{くじら}を^と漁^と獲^とす^るの^外他^のの^者物^{もの}を^とり

捕^と獲^とす^るの^外他^のの^者物^{もの}を^とり

捕^と獲^とす^るの^外他^のの^者物^{もの}を^とり

捕^と獲^とす^るの^外他^のの^者物^{もの}を^とり

捕^と獲^とす^るの^外他^のの^者物^{もの}を^とり

捕^と獲^とす^るの^外他^のの^者物^{もの}を^とり

捕^と獲^とす^るの^外他^のの^者物^{もの}を^とり

捕^と獲^とす^るの^外他^のの^者物^{もの}を^とり

俄羅斯國^{ロシア}

俄羅斯國^{ロシア}を^し歐羅巴洲^{ヨーロッパ}の^東東

北^{きた}西^{にし}細^{こま}亞^あ細^{こま}海^{うみ}の^北北^{きた}方^{かた}を^し結^{むす}接^つせ